

(17) 道の駅の事業運営に係る情報

資料	頁
道の駅の事業運営に係る情報	2- (17) -1
主な道の駅の成功事例	2- (17) -2
平成27年度 重点「道の駅」の選定について	2- (17) -5

■道の駅の事業運営に係る情報

参考1：道の駅設置者（平成25年9月時点）

設置者	箇所数	構成比率	備考
自治体（市町村）	985	98.1%	
自治体（都道府県）	6	0.6%	
第三セクター	8	0.8%	
公益法人	5	0.5%	
合計*	1,004	100.0%	

参考2：管理・運営者種別（平成25年9月時点）

管理・運営者	箇所数	構成比率	備考
自治体	158	15.7%	
第三セクター	312	31.1%	
財団法人等へ委託	89	8.9%	観光施設管理協会、地域振興財団等
指定管理者等	445	44.3%	JA、民間会社等
合計*	1,004	100.0%	

※現在は1,054箇所の道の駅が整備されている。

参考3：主要機能導入率（平成20～24年登録施設）

機能	導入率
特産販売所・直売所	99.2%
レストラン・軽食	90.6%
温浴施設	14.8%
体験施設	12.5%
宿泊施設	7.8%
博物館	6.3%

■主な道の駅の成功事例

名称	道の駅 とみうら 枇杷倶楽部 (1993年4月)	道の駅 田園プラザ川場 (1996年)
特徴	特産物の枇杷を使った商品開発や地元と連携した観光ツアー等により観光客を呼び込み、地域振興に成功	充実した施設と多くのこだわりの商品で05～09年の5年間、関東の「好きな道の駅」で連続1位を獲得
場所(人口)	千葉県南房総市 (5700人)	群馬県川場村 (3,500人)
運営主体	公共部門は富浦町枇杷倶楽部課、営利部門は町が全額出資の第3セクター(株)とみうらが担当。 H24.10より第3セクター(株)と南房総(南房総市内の第3セクター3社が合併して設立)	㈱田園プラザ川場 (第3セクター)
事業費		33億円 (村主導)
規模		敷地面積 5ha
経緯	人口減少、一次産業の衰退等の課題を解決するため、町長の決断でプロジェクトを結成。道の駅の整備開始時期と重なり、文化振興、地域振興、情報共有できるプラットフォーム的ないちいち形成を提案、第3セクターとしてスタート。当初から行政に頼らない3セクターとして黒字化を目指し、規格外品の枇杷に着目した商品開発を実施。道の駅の安定的な運営を基軸として、地域の産業の活性化を図る。	ビール工房、ミルク工房、ミート工房等の製造工程を見学できる体験型施設でスタートしたが、10年で売上げが減少。官主導の第3セクターで民間の商売の感覚が欠如していると感じ、気配り、目配り、心配りを重視する方針を打ち出した。差別化できそうな商品の選択と集中、強い印象を与える驚くようなサービスで集客(特産品の無料配布、無料体験、半額イベント等)
メンバー	枇杷倶楽部プロジェクトの責任者は、元富浦町役場職員の加藤文男氏。役所内スタッフと流通業に携わる町出身の鈴木賢二氏(現駅長)も呼び込みプロジェクトを開始。	「水芭蕉」ブランドの造り酒屋から実績を買われて就任 (2007年)
従業員	正社員9名、パート・アルバイト60名	社員はパートを含め全部で110人。村内には若者が働ける職場が少なく、若者の就労の場を提供
売上げ	年間60万円	2012年度104万人、10億円超
事業内容	枇杷生産者と連携した6次産業化、枇杷狩りや花摘みなど地域の観光資源を組み合わせた日帰りツアーを企画、旅行会社に営業して団体客を集客する「一括受発注システム」のビジネスモデルを構築。 開業当初の簡素な建物から、テラス飲食席や花壇のスペース拡張など少しずつ事業を拡大、直営の花園や莓狩り園もオープンさせ、20年かけて面積も1.5倍に拡大。 ・出荷規格外を使ったオリジナル商品の開発 ・地域住民との交流・体験の場「枇杷倶楽部茶論」	駅長、生産者、専門家が力を合わせて一次産品の特徴を活かした加工食品を開発。地元産りのごのアップルパイ、地元コメ粉を使ったおやき、等が人気。ビール工房の地ビール、飲むヨーグルトの人気も高い。 売上げの1/3を稼ぐファーマーズマーケットは420人の登録農家が朝採りの農産物を出荷、1日3回品切れ情報を流して商品を補給 村産コシヒカリで作ったおにぎりの売上げは年間2500万円
その他	南房総地域に約4億円の経済波及効果 (2010年度時点)	
出典	http://onionwor.id.jp/news/post/4431 http://www.jamp.gr.jp/academia/pdf/104/104_11.pdf http://www.mlit.go.jp/common/000213045.pdf	http://net.keizaikai.co.jp/archives/14254 http://www.denenplaza.co.jp/

名称	道の駅 東山道伊王野 (2000年)	道の駅 萩しーまーと (2001年4月)
特徴	1000戸に満たない伊王野地区の1/3の世帯が出資し、地区を挙げて運営	「観光客は捨てる」戦略で地元の人に喜ばれる施設
場所(人口)	栃木県那須町 (2万8千人)	山口県萩市 (5万人)
運営主体	東山道伊王野ふるさと物産センター組合	ふるさと萩食品協同組合 (地元漁協、水産事業者によって設立された事業協同組合)
事業費		約5億円 (補助率33%)
規模		施設面積 1600m ²
経緯	人口3500人弱の旧伊王野村の活性化を目的に設立。当時の経済情勢もあり、町やJAからは運営主体になれないと断られた。そこで、里づくり委員会のメンバーを中心に地元住民が出資して組合を作り、「ふるさと物産センター」、「お食事処水車館」、「加工体験施設」の3つの施設を運営することになった。	全国にある観光市場「お魚センター」の計画から始まったが、先行事例を調査した結果、地元重視の方向性へと転換 地元マーケットを見ると地物がほとんどない状況であったことから、地産地消をコンセプトに、地魚のブランド化に取り組む
メンバー	組合長は地元で工場がある大手製造業の定年退職者、その他農業者をはじめ都会からのUターン者や役場の職員など、様々な経歴をもつ人が組合活動に参加。当初は一口1万円で約320人から850万円 現在の出資者数は383名、出資金額は1321万円	マーケティング・マネジメント経験者を全国公募 (駅長はリクルート出身でIターンした中澤氏)
従業員	営業開始当初は8~9人だった従業員もいまでは48人	
売上げ	17年度は3億円	年間140万人、10億円超
事業内容	こだわりをもったそばの提供を心がけた成果で来客が増加 手打ちそばの味を落とさないよう引き続き後継者を育成し、「そばの里」づくりを進め、ブランド化にこぎつけた。 直売所には「はとバス」も立ち寄る。 中山間地特有の山菜、たけのこ、きのこ、タラの芽等の栽培・特産品化など、まだ活用しきれっていない資源がある。	地元で獲れた魚介類のブランド化、地産産比率80% 「観光市場は平日に苦しい」という経験を元に地元市民をターゲット設定。野菜・果実から味噌醤油、肉類も地元産にこだわった食品のワンストップショッピング 観光客用に大型バス駐車場を完備するほか、インターネットなどを活用した情報の提供や季節ごとのイベントを開催し、地元の観光業の発展にも貢献 都内高級スーパーに朝獲れ生魚を出荷 物販13店舗、飲食4店舗、情報ターミナル、セミナールーム (スタジオオキキチン)、公園等
その他	町に土地、建物の賃貸料として230万円を払う優良事業者	清掃も自前のローコストオペレーション 出店者の家賃は坪1万円/月
出典	http://www.esri.go.jp/pt/prj/mytown/genki/report/g074-0601-01.html http://www.kouryu.or.jp/gt/market/intro/jdr028000005hckz.html	道の駅/萩しーまーと ビジネスモデル 中澤さかな/(一財) 商工総合研究所 http://www.shokosoken.or.jp/jiyosei/soshiki/s19nen/s19-5.pdf

名称	道の駅 どまんなかたぬま (2001年8月)	道の駅 むなかた (2008年4月)	道の駅 豊前おこしかけ (2008年)
特徴	買い物代行サービスなど、地方が抱える課題を解決	豊富な地域資源と大消費地近郊という立地条件を活かし、年間16億円の売上げの99.9%が地元産品	豊かな自然を集客に活かし、地元産商品の高付加価値化で固定客を確保。来訪者の9割が市外から占める
場所(人口)	栃木県佐野市 (12万人)	福岡県宗像市 (9万6千人)	福岡県豊前市 (2万7千人)
運営主体	㈱どまんなかたぬま (田沼町が第3セクターでスタート、佐野市との合併のため同社を設立し管理運営を行う)	株式会社道の駅むなかた (市が立会いとなってJ.A・漁協・商工会・観光協会が出資して設立、平成25年に市も出資)	(株)ぶぜん街づくり会社 (資本金1,000万円)で設立した会社に市が3,000万円を出資し、第3セクターとなる)
事業費規模	13,691m ² (床面積2,026m ²)		
経緯	「サービス業は人で勝負」の信念の元、300万円の研修費をかけて人材育成して以来、接客レベルの質の高さが売り物。買い物代行もその一貫	九州地区4年連続No.1の売上げと集客	10年で人口が1割減少、目立った観光資源もなく、消費も近隣の都市に奪われる中、地域活性化の糸口として道の駅に着目。集客の目玉として、地元に立地するTOTOの協力も得て「日本一思いやりのあるトイレ」からスタート。地元業者を集めて「豊前特産品研究会」を作り、地場のかぼちゃを使ったケーキやプリンを開発
メンバー	駅長は東武宇都宮百貨店から人材派遣された篠原氏	生産者600人が出品、32名が1000万円売上げ。 館長は公募で選ばれたスーパーマーケットの店長経験者	農業を開始する人も現れ、現在の出品者は400名以上。豊かな自然でできる柚子やコマの購入者を対象とした山間部ツアー、付加価値を高めて地域外にも販売
従業員	従業員85人のうちアルバイトは10名		
売上げ	年間200万人が利用、2014年度売上高は16億円	年間160万人、2014年年度は18億5千万円	2012年度120万人、6億円
事業内容	子供向け遊戯施設、足湯(無料) 農産物直売所、ふれあい交流館、フードコート、EVスタンド 施設内店舗は全て直営とし、サービスの質の高さを維持	客が集まり、商品が売れる"流通・小売りの現場" 鐘崎漁港を始め、神湊、大島、地島等の漁港から直接運ばれてくる水産物が、広い売り場の3分の1のスペースを占める。	道の駅にある会議室を拠点に、新規就農者を対象とした勉強会「おこしかけ未来」を毎月開催 豊前棚田ゆず：品質の良い柚子を復活、風味、香り、食感を大切に「ゆずベースト」の開発 棚田轟の里：過疎や高齢化の厳しい条件下の棚田でお米を栽培 高校生プロデュース：青豊高校のクッキング部が考案した弁当レシビをプロが作成 豊かな自然に愛着を持ってくれる4000人の会員組織づくり
その他			
出典	日経ビジネス 2013.4.22	https://newswitch.jp/p/555	日経ビジネス 2013.4.22 http://www.okoshikake.jp/index.html

平成28年1月27日

道 路 局

平成27年度 重点「道の駅」の選定について

～地方創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します。～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、平成26年度より関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施しています。

平成27年度は、地方創生に資する地産地消の促進及び小さな拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置又はリニューアル等に関する企画提案を募集し、この度、有識者のご意見を踏まえ、重点「道の駅」として38箇所選定しましたので、お知らせします。

[問い合わせ先]

国土交通省 道路局

企画課 企画専門官 井坪 慎二

【代表】：03-5253-8111 (内線 37552)

【直通】：03-5253-8485 FAX：03-5253-1618

国道・防災課 課長補佐 竹内 勇喜

【代表】：03-5253-8111 (内線 37842)

【直通】：03-5253-8492 FAX：03-5253-1620

平成27年度 重点「道の駅」の概要

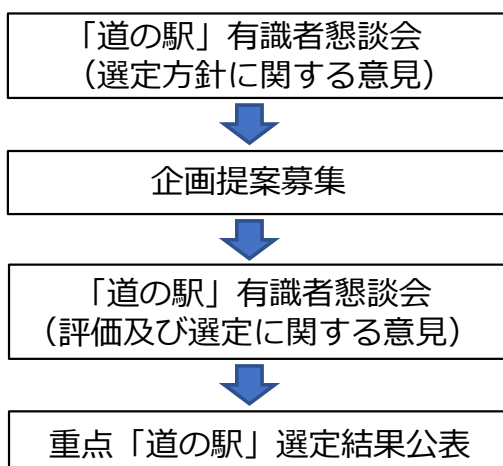
<主な取組内容>

①産業振興 地域の特産品を活かした産業振興「道の駅」
②地域福祉 地域の高齢化等に対応した住民サービス（地域福祉）を提供する「道の駅」
③交通結節点 公共交通の結節点として地域住民に交通サービスを提供する「道の駅」
④防災 災害時に高度な防災機能を発揮する「道の駅」
⑤観光総合窓口 地域の観光総合窓口となる「道の駅」
⑥インバウンド観光 インバウンド観光を促進する「道の駅」
⑦地方移住等促進 地方移住・ふるさと納税推進に貢献する「道の駅」
⑧交流・連携 地域間の交流・連携を促進する「道の駅」
※上記取組を実践する方法として 「道の駅」相互のネットワーク化により効果を発揮する「道の駅」

<支援内容>

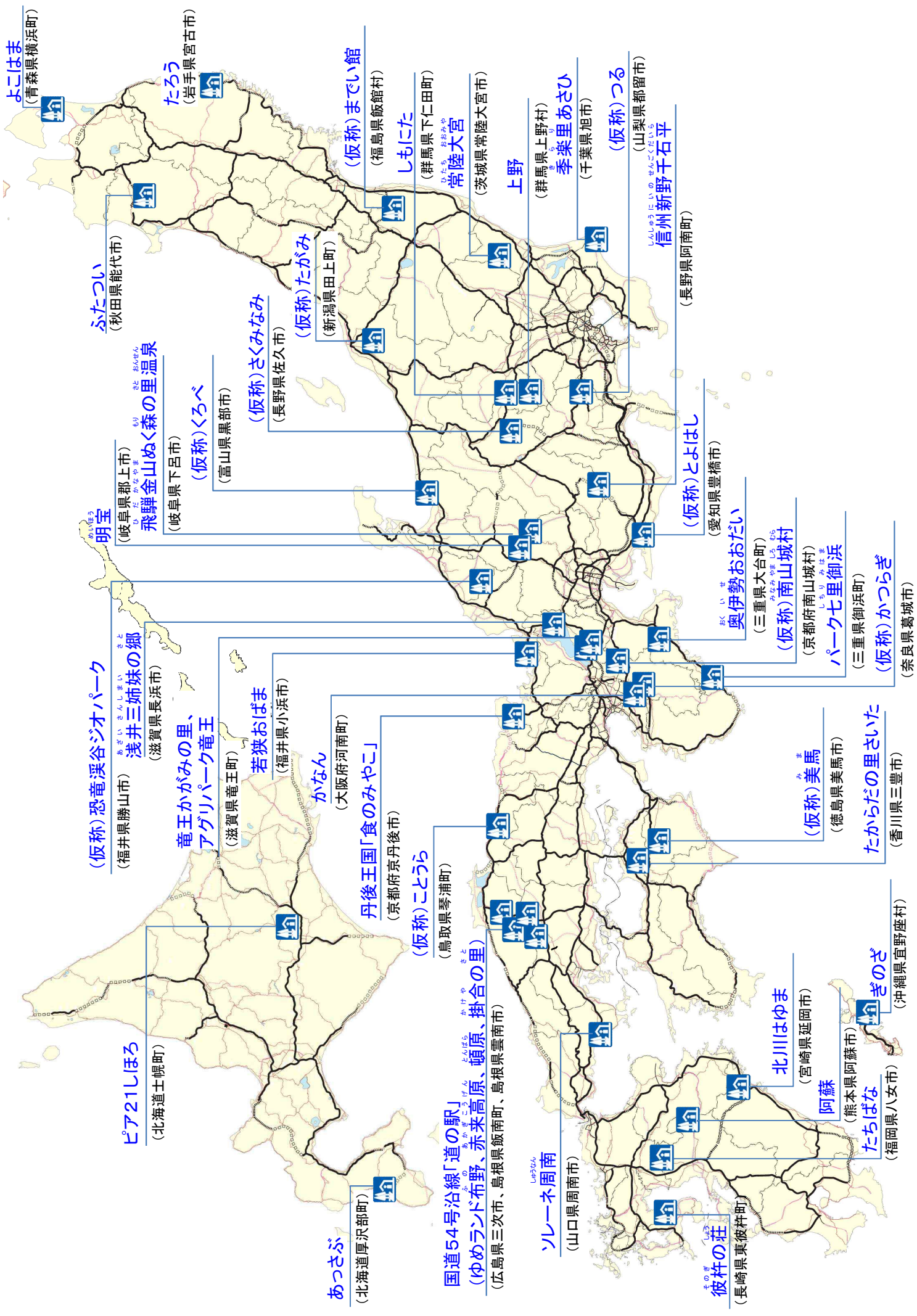
- 自治体・関係機関による協議会等を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制を作ります。
- 道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、直轄道路事業及び社会資本総合交付金等を活用して国土交通省が支援します。
- 重点「道の駅」の取組を広く周知します。

<選定の流れ>



「道の駅」有識者懇談会	
委員長：石田 東生	〔筑波大学 システム情報系社会工学域 教授〕
楓 千里	〔(株) JTBパブリッシング 取締役 ノジュール事業担当〕
篠原 靖	〔跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 准教授〕
根岸 裕孝	〔宮崎大学 教育文化学部 准教授〕
山田 知子	〔比治山大学 現代文化学部 教授〕
(敬称略・五十音順)	

重点「道の駅」選定 38箇所



重点「道の駅」 全 38 箇所

主な取組内容	都道府県	市町村	駅名	主な特長
産業振興	岩手県	宮古市	たろう	水産物の直売や6次産業化による漁業復興・再生の拠点。
	茨城県	常陸大宮市	ひたちおおみや 常陸大宮	全国でも生産量の少ない洋野菜の地産地消及びブランド化の推進。
	山梨県	都留市	(仮称)つる	地域伝統野菜の加工品開発による6次産業化。
	千葉県	旭市	きらり 季楽里あさひ	基幹病院等と連携し「医食農同源」をテーマに、豊富な地元農水産物を活用した地産地消の推進。
	長野県	佐久市	(仮称)さくみなみ	健康長寿をテーマに、健康長寿野菜や健康長寿食の提供による地産地消の推進。
	富山県	黒部市	(仮称)くろべ	豊かな農産物と希少な海産物を活用した6次産業化の拠点。
	三重県	みはまちよう 御浜町	パーク七里御浜 しちりみはま	柑橘加工商品の開発と6次産業化の推進。
	滋賀県	長浜市	あざいさんしまい さと 浅井三姉妹の郷	起業や商品開発をサポートする「チャレンジショップ」の設置による地産地消型産業の振興。
	京都府	南山城村	(仮称)みなみやましるむら 南山城村	「村で暮らし続けるための仕掛け作り」として、特産品である南山城茶を活用した商品開発。
	大阪府	かなんちよう 河南町	かなん	なにわの伝統野菜を使った商品を開発・提供するための施設整備。
	鳥取県	琴浦町	(仮称)ことうら	隣接する既存の道の駅との機能分担及び連携し、地元特産品を活用した6次産業化など地産地消の推進。
	徳島県	みまし 美馬市	(仮称)みま 美馬	地元農林水産物の集出荷システムを活用した産地直売所の設置や地域野菜を活用した6次産業化推進。
	沖縄	ぎのざそん 宜野座村	ぎのざ	宜野座エコ農産物や人材資源等を活用し「食育・地産地消活動」の促進。
地域福祉	青森県	横浜町	よこはま	周辺施設を活用した、地方創生拠点を形成する自動車専用道路IC直結の道の駅。
	福島県	いいたてむら 飯舘村	(仮称)までい館	原発災害からの帰村時の日常生活を支える、役場や医療機関等と連携した復興拠点。
	群馬県	下仁田町	しもにた	買い物困難者への宅配サービス提供、子育てサポート、公共交通バスの結節点化などによる「小さな拠点」の形成。
	新潟県	田上町	(仮称)たがみ	道の駅周辺に公共サービスと生活サービス機能を集約。道の駅と集落地域等を結ぶ公共交通・宅配サービスの導入。
	長野県	あなんちよう 阿南町	しんしゅうにいのせんごくだいら 信州新野千石平	高齢者への宅配サービスを通じた買物支援や安否確認、町民バスと連携した中山間地の生活支援。
	岐阜県	ぐじょうし 郡上市	めいほう 明宝	NPOと連携した日用品の配達及び生活支援サービスによる高齢者支援。
	岐阜県	げろし 下呂市	ひだかなやま 飛騨金山 もり さと おんせん ぬく森の里温泉	病院・老人福祉施設等の地域福祉機能等の集約、コミュニティバスや高齢者宅配サービス等による小さな拠点機能の向上。
	奈良県	葛城市	(仮称)かつらぎ	高齢者の交通手段確保のためのコミュニティバス運行、ICTを活用した買い物支援。
	山口県	しゅうなんし 周南市	ソレーネ周南 しゅうなん	高齢者の相談窓口の設置、バス停の整備による、地域住民のサポート体制の構築。
	福岡県	やめし 八女市	たちばな	地域福祉の向上と地域住民の安全安心な地域コミュニティ再生による行政サテライト機能の充実
	長崎県	ひがしそのぎちよう 東彼杵町	そのぎ しよう 彼杵の荘	障害者支援施設が行う移動販売車による買物支援と農産物の集荷・販売システムの確立。

主な 取組 内容	都道 府県	市町村	駅名	主な特長
交通結節点	北海道	しほろちよう 士幌町	ピア21しほろ	長距離バス、路線バス、地域コミュニティバスの結節点として機能。
	福井県	小浜市	若狭おばま	交通結節点機能強化(バスターミナル機能拡張、パーク&ライド)による観光促進。
	三重県	おおだいちよう 大台町	おくいせ 奥伊勢おおだい	JR、高速バス、路線バスの結節点における行政、文化、、観光、医療サービス拠点の形成。
	宮崎県	延岡市	北川はゆま	コミュニティバスの乗入れや高速バスストップの設置、パーク&ライド機能を備えた乗継拠点。
防災	愛知県	とよはしし 豊橋市	(仮称)とよはし	南海トラフ地震等に備えた防災活動拠点。
観光 総合 窓口	福井県	勝山市	(仮称)恐竜渓谷 ジオパーク	県立恐竜博物館等を活かした観光・交流拠点。コミュニティバスによる周遊観光。
	京都府	京丹後市	丹後王国 食のみやこ	丹後地域の観光資源、地域食材等を紹介する観光等総合窓口。
観光 ウィン ドパ	秋田県	能代市	ふたついで	世界遺産「白神山地」の玄関口として、多言語化に対応したインバウンド観光案内所(スタッフ・ガイド)を配置。
地方移住等促進	北海道	あつさぶちよう 厚沢部町	あつさぶ	日本版 GCRC との連携により高齢者移住や、新規就農による移住・定住促進に向けた情報発信や総合案内。
	群馬県	上野村	上野	移住窓口を設置するなど道の駅を中心に移住・雇用対策を展開。
	香川県	みとよし 三豊市	たからだの里 さいた	道の駅の観光ポテンシャルを活かした移住促進(移住コンシェルジュによる相談窓口設置、移住体験ツアー開催等)。
	熊本県	阿蘇市	阿蘇	消防署、医療センター等と連携した「小さな拠点」の形成。空き家バンク制度を活用し、移住定住等を促進。
交流・ 連携	滋賀県	竜王町	竜王かがみの里・ アグリパーク竜王	土産土法の取組を2駅(集客力のある駅と農業生産力のある駅)連携で推進。
	広島県 島根県	みよしし 三次市 うんなんし、いinanちよう 雲南市、飯南町	国道54号沿線 「道の駅」	自動車道の開通により交通量が減少した国道54号沿線の4つの道の駅の相互連携による、地域の暮らしを持続的支える環境構築。

- 市内農家で生産に取り組んでいる、全国でも生産量の少ない洋野菜について、地産地消の取組として道の駅のレストラン・加工施設での活用や、学校給食での活用、大学連携などを通じて、特産品化を支援し、地域経済の活性化を推進。
- 体験農園(約1,500㎡)に、洋野菜のモデル圃場を設置し、高齢農業従事者や新規女性・若年就農者への研修や、消費者への認知度向上を図るとともに、来訪者と生産者の交流の場を創出。
- 無料の市民バスのバス停を設置し、周辺施設とネットワークでつなぎ高齢者の生活福祉サービス向上を促進。

産業振興 常陸大宮ブランド創出	交流・連携 地域資源を活用した体験・交流	観光総合窓口 地域のコンシェルジュ	防災 災害時の支援拠点	交通結節点 高齢者の生活福祉サービス向上
---------------------------	--------------------------------	-----------------------------	-----------------------	--------------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
常陸大宮	茨城県	常陸大宮市	国道118号	新設	平成27年	一体型



体験農園での研修会を通じた来訪者と生産者の交流促進

洋野菜を活用した女性目線のレストランメニューの開発



市民バス(無料で運行)

<提案の先駆性・ポイント>

- 本市では中山間地域のデメリットを補うため平成23年度より全国でも取扱いが少なく収益性の高い洋野菜生産に取り組み始めている。この洋野菜を道の駅で取扱い地産地消を推進しブランド化を図る。さらに、道の駅内に洋野菜のモデル圃場を設置し新規就農者へ研修会を行い農業従事者の所得向上につなげる。
- 洋野菜は、比較的軽量、収益性も高いことから、高齢農業従事者の意欲向上につながる。女性嗜好にも合う料理の提供や体験農園での栽培により、女性・若者の交流の促進や若年新規就農者の確保を図る。
- 大学との連携により、特産品を活かしたレストランメニューなどの開発を行うとともに、消費者の評価分析を実施し、更なるメニュー開発に活かす。

<実施内容>

- 直売施設への洋野菜等専門コーナーの設置や、デジタルサイネージによるレシピ紹介。
- 大学との連携による洋野菜を活かしたレストランメニューや惣菜メニューの開発と、JAや種苗メーカーなど専門家との連携による洋野菜栽培の技術支援。
- 農業・商業連携による新たな商品開発。
- コンシェルジュデスクやWi-Fi設置による情報発信機能の向上。
- 災害用戸外、非常用発電機、ドクターヘリポート等整備による防災機能の強化。
- 無料の市民バスのバス停を設置。

- 地域伝統野菜である水掛菜について、加工品の開発による6次産業化、メニュー開発や地域給食センターでの提供、試食を通して認知度をあげる水掛菜サミット開催による地産地消の推進とともに、農業収穫体験による伝統的な栽培方法の伝承に取り組む。
- 地元大学の留学生と連携して地域の魅力を再発掘し、富士山湧水を利用したワサビ田や湧水飲み比べなど、農村ならではの自然体験ツアーを企画立案し、道の駅を核とした着地型インバウンド観光に取り組む。

インバウンド観光 留学生目線の魅力再発見	防災 地域ぐるみ	産業振興 地域固有種の保存と地産地消	交流・連携 新規会社設立
--------------------------------	--------------------	------------------------------	------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)つる	山梨県	都留市	国道139号	新設	平成28年度	単独型

着地型インバウンド観光(富士湧水の活用等)



【ワサビ田の田園風景】



【富士山湧水飲み比べ】



地域固有種(水掛菜)



【水掛け菜サミット風景】



【水掛け菜商品開発】

<提案の先駆性・ポイント>

- 地域大学留学生目線でのサービス形成、
- 地域に残る富士山湧水の歴史的利用価値の見学・体験
- 未来の担い手おもてなし精神の情操教育
- 防災リーダー・防災士資格者の育成
- 直売所施設に合わせた事前図上シュミレーション(HUG)
- 地域野菜を利用した長期保存食(干し野菜)の確保
- 地域固有種の保存と認知度向上による消費拡大
- 直売所運営母体の新規設立(LLC予定)

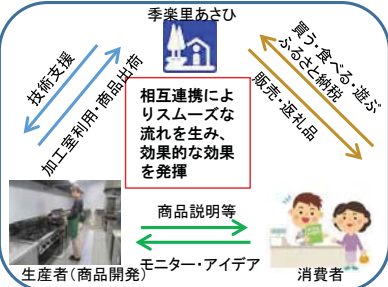
<実施内容>

- 滞在する留学生目線で地域の魅力を再発掘⇒サービス形成
- 地元しか知らない都留ならではの“水つながり”ツアーを形成
- 市内中学生へのおもてなし精神教育(おもてなしバイブル作成)
- 防災士を配置し、防災リーダーの育成を図る
- 従業員研修:直売所版のHUG(避難所運営ゲーム)実施
- 干し野菜作りや作り方の体験教室を開催を予定する
- 水掛け菜サミットの開催(第2回まで地域開催→次回以降は道の駅開催)や消費拡大直売所レストランメニュー開発
- LLC方式(合同会社)による地域内に新会社設立予定

○道の駅の加工施設を活用した生産者による6次産業化に取り組む。また、診療圏人口100万人の基幹病院等と連携し、「医食農同源」をテーマに豊富な地元農水産物を活用しメニュー開発による地産地消に取り組む。

①産業振興及び地方移住等促進
道の駅を活用した商品開発による新ブランド創出とふるさと納税による特産品の情報発信

産業振興 特産品開発とブランド化	交流・連携 交流機会の創出	防災 情報発信機能強化	地方移住等促進 ふるさと納税との連携			
駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
季楽里あさひ	千葉県	旭市	市道1級59号線	新設	平成27年度	単独型



②交流・連携 地元農業高校と連携・屋外ステージ活用による交流創出
総合病院と共同開発・地元の産物を活用した「医食農同源」による振興

③情報発信機能強化
WiFiを活用した各種情報発信



<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅において開発から販売まで一貫して実施
- 開発から販売までの技術的支援を行い生産者をバックアップ
- 県下唯一の農業高校との連携による農業後継者育成や、屋外ステージを活用し様々なイベントを開催することにより、市民の芸能発表の場と交流機会を創出
- 千葉県東部(茨城県南部含む)の基幹病院との連携したメニューを「道の駅」で提供

<実施内容>

- 産業振興(一部地方移住等促進)
・道の駅直売スペースから加工室が可視であるため、消費者にPRしながら商品開発することが可能。(道の駅において販売実践・ふるさと納税返礼品でPR)
- 交流・連携(地域振興)
・農業高校の生徒によるPR・販売、屋外ステージイベントでの交流機会の創出
・総合病院の管理栄養士がレストランメニュー開発し道の駅で提供
- 情報発信・・・WiFiを活用した各種情報、災害情報の情報発信機能強化

○長寿県・長野の中でも屈指の健康長寿を誇る佐久市が目指すのは「世界最高健康都市」
○食材や伝統食について、免疫力や塩分量などの健康長寿に関する情報発信に取り組む。
○高速道路と国道の結節点という恵まれた立地を活かした地域内外のゲートウェイとして、安心安全な健康長寿野菜や健康長寿食の提供による地産地消に取り組む。



産業振興 健康長寿の地産地消とブランド化	防災 安心安全なまちの健康	地域福祉 繋がるきずなの健康	交流・連携 地域内外のゲートウェイ
-------------------------	------------------	-------------------	----------------------

佐久市の平均寿命は全国で男性15位、女性19位(※2020年国勢調査)
長寿県・長野でも、男女ともトップ20にランクは佐久市だけ!

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称) さくみなみ	長野県	佐久市	国道142号 市道25-3号	新設	平成29年度	単独型

佐久市の健康長寿 = 「ひと」+「まち」+「きずな」の健康

そして、佐久市から「広がる健康づくり」

ひとの健康
市民の健康長寿を培ってきた安心安全な食の地産地消、外部への健康長寿食文化の情報発信

安心安全な健康長寿野菜の販売
健康長寿食の提供

びんごる御膳
びんごる御膳 → 佐久市で取り扱われる地元食材を使用した生活習慣病予防と健康増進を目的としたメニュー

まちの健康
高速道路 I C の「交通の要衝」の特性を活かし、防災・災害支援拠点として機能

防災・災害支援拠点

きずなの健康
地域内外の交流促進による相互の元気を創出

地域内外の人・モノ・情報の交流

道の駅で具現化
道の駅でさらに進化



<提案の先駆性・ポイント>

- 佐久市の健康長寿は、「ひとの健康」はもとより、豊かな自然や安心安全な都市空間などの「まちの健康」、住民間・地域間の交流といった「きずなの健康」、そしてこれらを発信する「広がる健康」により形成。そのすべてを総合的に展開し、佐久市そのものが健康長寿であることを地域内外に知らしめる場所となることで、地域ブランドの創出と地方創生の拠点としての機能発揮を図る。

<実施内容>

- 市民の長寿を培ってきた安心安全な健康長寿野菜、健康長寿食の提供による地産地消の推進、食材や伝統食について免疫力や塩分量等の健康長寿に関する情報発信、健康長寿ブランド化
- 地域・広域の防災・災害対応拠点としての機能発揮
- 交流機会の提供による地域住民の生きがいの創出
- 健康長寿をキーワードに地域内外のゲートウェイ機能の発揮

- 北アルプス、黒部川扇状地の“名水”が育む豊かな農産物や、“神秘の海”富山湾で獲れる希少な海産物と、これを活用し「新たな特産品」を生み出す道の駅
- 若者から高齢者までの多様な世代と様々な従事者の交流により、6次産業化の拠点となり、地域の雇用と交流を生み出す道の駅
- コミュニティバス運行により回遊性の向上を図り、道の駅を交流拠点として活用することで、点在する市街地の一体化を担う道の駅

産業振興 地域特産のブランド向上と商品開発、6次産業化と併せた地産地消	交通結節点 コミュニティバスによる市域の一帯化	観光総合窓口 富山県東部の主要観光地の発信拠点	防災 黒部市総合公園と一体となった防災避難拠点
---	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)くろべ	富山県	黒部市	国道8号	新設	平成33年(予定)	一体型(予定)

地域の課題

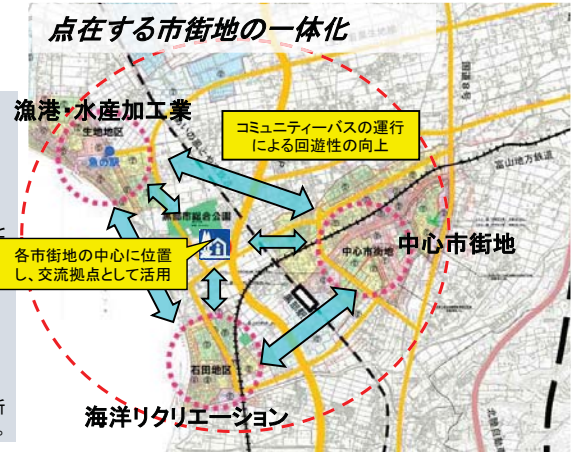
- 埋もれた地域資源**
・特産品、観光資源などの魅力度・知名度が低い
→ 地域資源を結び付けるきっかけと仕組みが必要
- 農山漁村の過疎・高齢化**
・農山漁村の人口流出。市街地への人口流入
→ 地域の回遊性向上がカギ
- 点在する市街地の一体化**
・3地区(三日市、生地、石田地区)に分散する市街地
→ 市民の都市サービス・コミュニティスペースの創造
コミュニティバスの交通拠点
- 防災に対する市民意識の高揚**
・大規模災害の発生時に対する防災基盤の拡充
→ 地域防災力の向上が必要



地域資源を活かす
黒部川扇状地の名水や富山湾が育んだ地域独自の農林水産物を活かして、6次産業化を図り、農林水産業の再生と雇用創出を図る。



伝統文化の継承
古くから継承されてきた特産品を後世に継承するため、特産品生産・加工を体験。世代間交流・異業種交流による新たな特産品を生み出す。



<提案の先駆性・ポイント>

- 北アルプス、黒部川扇状地の“名水”が育む豊かな農産物や、“神秘の海”富山湾で獲れる希少な海産物を活かした、地域独自の6次産業化が期待
- 農業・水産業の従事者の減少や高齢化が進む中、世代間・業種間交流と6次産業化、情報発信によって、農林水産業の再生と新たな雇用や交流を生み出す。

<実施内容>

- 道の駅に6次産業の拠点、世代間交流の拠点を整備
- 地元農産物直売、食の提供できる飲食施設の整備
- 市内の観光案内、食の体験施設利用の窓口
- 石田、生地の漁村、三日市の市街地を結ぶコミュニティバスの運行
- 総合運動公園と連携し1日過ごせる世代間交流のコミュニティカフェの整備

- 地元の農林水産物直売施設を拡張し、道の駅内の販売機能を生かした地産地消の促進
- 生産者と加工業者の連携による「年中みかんのとれるまち」御浜町の特色を生かした新たな柑橘加工商品の開発と6次産業化の推進
- 三重県内唯一の「道の駅」を中心とした小さな拠点と山間地域とを結ぶ巡回バスを運行させ、周辺施設とネットワークで繋ぎ、拠点機能を拡大・拡充し、御浜町全域における高齢者等の福祉・生活サービスの向上を図る

産業振興 地元農林水産物の販売と活用	地域福祉 生活サービスの向上	防災 防災対策としての拠点	観光総合窓口 観光機能の充実
------------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------



<提案の先駆性・ポイント>

- 地元の農林水産物を集約して新鮮で安心安全な食材を提供し、道の駅のネットワーク機能と駅内のショッピングセンター機能を活かした販売力の向上により地産地消を図ると共に農業の振興と生産者の所得機会を創出。
- 生産者と加工業者が連携し、柑橘加工施設整備による6次産業化を推進し、農業所得の向上と雇用を創出。
- 町営無料巡回バスを運行して中山間地域の高齢者等を道の駅に集め、道の駅のショッピングセンターを商業の拠点とし、道の駅の周辺施設の生活に必要な機能を「合わせ技」で活用することにより行政、医療を含む生活サービスの向上を図る。また、巡回バスを活用した熊野古道利用客などの観光客を中山間地域へ誘客を図る。

<実施内容>

- 農林水産物の直売施設の拡張、巡回バス等を利用した回収システムを整備し、農産物販売機能の拡大を図る。また、道の駅のレストランや町内の学校給食等で活用。
- 柑橘加工施設の拡張による6次産業化の推進、生産者と加工業者の連携による商品開発。
- 巡回バスの運行により、生活の拠点となる「道の駅」と中山間地域の交通手段を確保し、高齢者等の利便性向上及び道の駅の発展と周辺施設の活性化、地域間の交流を図る。
- 観光総合窓口を設置して、熊野古道の案内を含めた観光プランの提供、巡回バス等を利用した観光地への誘客、「御浜町」の特色を生かした四季のみかん狩り体験を実施。
- 道路利用者の緊急津波避難場所として誘導。

- 起業や商品開発をサポートする「チャレンジショップ」を設置し、地域資源を生かした特産品の開発や販路の拡大により、地産地消型産業の振興を図る。
- 小谷城スマートインターチェンジの開通を契機に、着地型観光の基地として交流人口の増加を目指す。

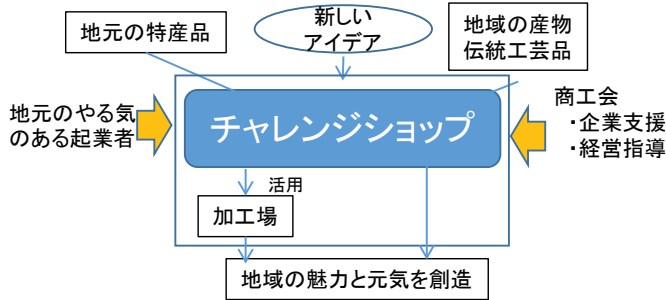


道の駅浅井三姉妹の郷

産業振興 地域活性化と雇用の創出		観光総合窓口 観光イノベーションの実現		連携・交流 周辺道の駅とのネットワーク		
駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
浅井三姉妹の郷	滋賀県	長浜市	国道365号	新設	平成28年	単独型

<長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略>

本市に居住しながら勤務できる企業が十分立地していないことから、「しごと」と「人」の好循環を作り出し、持続可能な「まち」の活性化を図ることを目的に平成27年6月に制定。



○新たな名物、特産品など

<提案の先駆性・ポイント>

- やる気のある地域の起業家を支援し、新たな名物、特産品を生み出す。
- 市の新たな玄関口として、地域の観光情報を発信し、周遊観光へ誘引し、滞在型観光への転換を図る。
- 市内各道の駅とヒト・モノの交流を行い地域活性化を図る。

<実施内容>

- チャレンジショップを設置し、新たな起業者の育成や新商品開発をサポートし、地域活性化を促進。
- 農産物加工室を設置し、特産品の開発による付加価値向上(6次産業化)の推進
- 観光コンシェルジュを配置し、地域の歴史・文化・自然を体感する体験型観光を提供し、市内全域に観光客を誘導。

※周辺には優れた多くの歴史遺産が点在する。

- 「村で暮らし続けるための仕掛けづくり」として、特産品である“南山城茶”を活用した商品の開発—「産業再生」
- 都市部と地元住民の交流拠点と位置付け、地域間交流を促進し、来訪者増加による定住・移住の促進—「次世代の担い手育成」
- コミュニティバスの運行、宅配サービス、安否確認等、高齢者生活支援の実践による地域福祉サービスの充実—「絆づくり」
- 住民出資の設立会社を運営会社にし、「村に必要なことを村の人が取り組み、利益を享受する」地域内循環型産業システムを実現

運営スタッフの公募等による雇用機会の創出、情報発信

情報発信:
むらびい
http://mura-kyoto.com/murabeat/
ミチノエキノミチ
https://www.facebook.com/michinoeki.minamiyamashiro/

「道の駅」開設準備のため、若手臨時職員を公募により採用し、南山城村に移住し、特産品開発、情報発信などに取り組む

交流・連携 都市との地域間交流 情報ワンストップ	産業振興 農林産物ブランド化 6次産業化・雇用創出	地域福祉 高齢者生活支援 コミュニティバス	防災 後方支援拠点 バックアップ機能			
駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)南山城村	京都府	南山城村	国道163号	新設	平成28年度	一体型

地域資源を活かした体験・交流機会の提供

田舎暮らし体験(炭焼き体験の様子)

地元の方とともに農作業体験を行う中で移住や田舎暮らし実現に必要な情報を提供

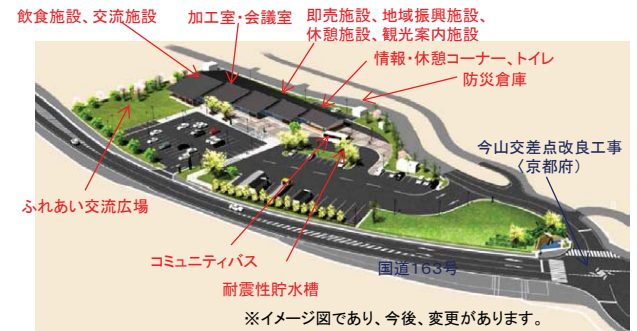
南山城村のお茶を中心とした文化や自然環境の豊かさ等の魅力を隣接府県に情報発信し、都市との連携や交流を回り、定住を促進することで、産業再生や次世代の担い手を育成

道の駅「南山城村」

地域の特産品によるオリジナル商品の開発

府内第2位の生産量を誇る高品質なお茶 村のお茶を原材料とした新商品

南山城村の特産品であり、14年連続で農林水産大臣賞を受賞した高品質なお茶を活用したオリジナル商品の開発



<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅整備を「村で暮らし続けるための仕掛け作り」と位置付け、茶業等の農業の衰退及び後継者不足、人口の減少・高齢化等の課題を解決するため、「産業再生」、「次世代の担い手育成」や「絆づくり」を担う拠点とする。
- 「村に必要なことを村の人が取り組み、それによって村の人が利益を享受する」という地域内循環型産業システムを実現する拠点とし、住民出資の設立会社を運営会社とする。
- 災害時の避難所、災害復旧の活動拠点、支援物資の集積拠点とする。

<実施内容>

- 「持続可能な農業」を実現するため、特産品である“南山城茶”を中心とした農林産物のブランド化とオリジナル商品を開発、即売
- 南山城村のお茶を中心とした文化、生活等を情報発信する施設、お茶の飲み方等を提案する施設での都市住民との地域間交流
- コミュニティバス、住民票等の自動交付サービス、コンビニ交付サービス、宅配サービス、役場と連携した安否確認等の高齢者生活支援
- NPO法人等の活動拠点等に活用できるサテライト・オフィスの整備
- 災害時後方支援拠点に利用する広場・防災倉庫・耐震性貯水槽の整備

〇なにわの伝統野菜などの地場産野菜を商品開発(6次産業化)して提供する施設の整備や直売所リニューアルにより、地方創生の拠点として、町の特産品を全面的にアピールし、地産地消の促進と雇用の創出
 〇情報発信拠点を整備し、町の観光情報や交通情報を総合的に発信
 〇災害時避難所に指定されていることから、防災倉庫や災害時に一時避難が可能な広場の整備

産業振興 特産品のアピール、地域農業の拠点	交流・連携 加工体験や産学連携での商品開発による地域活性化	観光総合窓口 観光振興拠点	防災 災害時避難所の備蓄機能
---------------------------------	---	-------------------------	--------------------------



新規コンテンツによる魅力づくりで周囲と差別化を図る取組

スイーツ工房

いちじく イメージ

イメージ

特産品の果物を活用したスイーツの商品開発・加工体験

カフェ・デリ

今朝どりの地場産野菜をふんだんに使用した料理を提供

インフォメーションセンター

西行法師終焉の地 弘川寺

町の総合的な観光・交通情報などを発信

<提案の先駆性・ポイント>

- 特産品(いちじくやなにわの伝統野菜)を前面に押し出した商品を開発し、加工体験や産学連携など交流の手段とすることで、地方創生に資する地域のアピールと活性化を推進する。
- 地場産のこだわり野菜をおいしく食べてもらうために今朝どり野菜をふんだんに使用した料理を味わってもらう場を設置し、地産地消を促進する。
- 観光情報提供や自転車のレンタルにより総合的に観光案内を行う。

<実施内容>

- 〇産学連携により特産品をオリジナルスイーツ等に商品開発【産業振興】
- 〇上記を購入・加工体験できる「スイーツ工房」や今朝どり野菜を食べることができる「カフェ・デリ」を整備【産業振興、交流・連携】
- 〇観光案内を行う「インフォメーションセンター」設置【観光総合窓口】
- 〇防災倉庫や災害時に使用できる広場の整備【防災】
- 〇規模拡大に合わせた駐車場やトイレの充実

〇山陰道整備後、現道沿線の活力が減退する中、移住・観光総合窓口等を設置して、地域の住民活動とも連動したホスピタリティ「おもてなし力」の向上を図る。
 〇山陰道に直結する地域内外の対流拠点としての情報発信力や観光誘客力を高め、既存の地域センター型「道の駅」等との連携により、当地ならではの食素材(魚・牛乳・和牛)を活用した「琴浦ブランド」を確立に向けた地産地消を推進し、地域活力の増進を図る。



観光総合窓口 観光コンシェルジュ設置	地方移住促進 移住コーディネーター設置	インバウンド観光 公衆無線LAN、多言語化	産業振興 琴浦ブランドの確立	防災 避難場所+後方支援
------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	--------------------------	------------------------

- 地域の課題**
1. 山陰道整備による現国道9号の交通量減少。それに伴う沿線商業施設の撤退による活力の衰退
 2. 観光・移住情報発信機能の欠如
 3. 人口急減・超高齢化による地域活力の衰退

- 道の駅登録により目指すべき目標**
1. 国道9号沿線の交流人口増加で地域活性化
 2. 「琴浦ブランド」の確立による産業振興
 3. 地域活性・産業振興による雇用の創出

■ 企画提案イメージ (近接した2つの道の駅の連携)



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)ことら	鳥取県	琴浦町	国道9号(山陰道)	新設(PA, 物産館は既設)	平成29年	一体型

■ 山陰道供用後の国道9号沿線の状況

撤退する飲食店

撤退するコンビニ

道の駅を中心として半径1kmの拠点化を図る

■ 道の駅「ポート赤碕」(地元中心の地域センター型)

観光情報発信

移住販売所

■ 琴浦グルメストリートの活動状況 (琴浦ブランドの核)

グルメウォークイベント

スイーツ振興委員会

琴浦町の国道9号沿線の地元事業者有志により寄付されたエリア。地域が一掃となり、琴浦グルメの魅力が全面に発揮している。(現在は山陰道の供用により国道9号の交通量が激減し、運営に支障が発生)

<実施内容>

- 〇外国人観光誘客対策((仮称)ことら) 無料公衆無線LAN環境の整備、多言語案内看板・パンフの設置
- 〇観光・移住定住促進((仮称)ことら) 観光コンシェルジュ・移住定住総合窓口設置、地域資源のガイド・体験・交流、ふるさと納税の提供、スマートインターチェンジ化と駐車場整備、EV充電設備等の設置
- 〇道路安全・防災拠点強化((仮称)ことら、ポート赤碕) 道路情報提供機能、災害時の情報発信や防災啓発教育、広域災害の支援物資輸送拠点、防災倉庫の整備
- 〇産業振興(ポート赤碕) 6次産業として海鮮食堂、東伯和牛店。魚、牛乳を活用したグルメ・スイーツの開発(「琴浦ブランド」の確立)。漁協とJAと連携し鮮魚と農産物の移動販売基地の充実。

<提案の先駆性・ポイント>

- 近接する、山陰道に直結する新設「道の駅」と現道国道9号沿いの既存「道の駅」が、それぞれ異なる機能を活かしながら、一つの運営組織で一体的に地域活性化を行う。
- 道の駅「ことら」に観光協会・移住定住窓口を設置し、専属で人員が常駐し、町内観光案内や既存「道の駅」への誘導のほか、移住・就労支援の窓口となり、町外からのゲートウェイ機能を担う。
- 既存「道の駅」は、地域センターとして、移動販売など地域住民の生活利便性向上を行うとともに、NPOとも連携し地域の新鮮な食材を活用した「琴浦ブランド」を確立、6次産業を推進する。

- 産業振興施設として産地直売所を設置し、中山間地域の小規模ならではの豊富な品種、おいしい野菜を「道の駅」に集積させ、地産地消推進（地元農林水産物の集出荷システムの活用）
- 食品加工スペースを設け、「地域野菜」などの地元産品を活かしたオリジナル商品の開発等、6次産業化の推進を図るとともに、「阿波尾鶏」や「地域野菜」など、地域ブランドとなる食材を加えた飲食品の提供を行うなど地産地消の推進
- 地域防災機能の強化を目的に、防災設備（防災ヘリポート、防災広場、発電設備、飲料用貯水槽、備蓄倉庫など）を整備



（「阿波尾鶏」）
阿波畜産3ブランドの一つ

産業振興 地産地消の促進	防災 地域防災の強化	観光総合案内 ボランティアガイドの窓口化	交流・連携 体験交流機会の提供
-----------------	---------------	-------------------------	--------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)美馬	徳島県	美馬市	主要地方道 鳴門池田線	新設	平成30年度	一体型



（各種交流・体験機会の提供）



（寺町地区の風景）



（ボランティアガイドの活用）



（防災ヘリポート設置など、防災拠点の整備）

<提案の先駆性・ポイント>

- 産地直売所へ農林水産物の集出荷システム等を活用
- 地域食材を使った食事処設置によるブランド化
- 地域野菜等を用いた加工施設整備
- 地域防災の強化、自主防災組織の活動拠点化
- 観光案内窓口の設置（ボランティアガイドの活用）

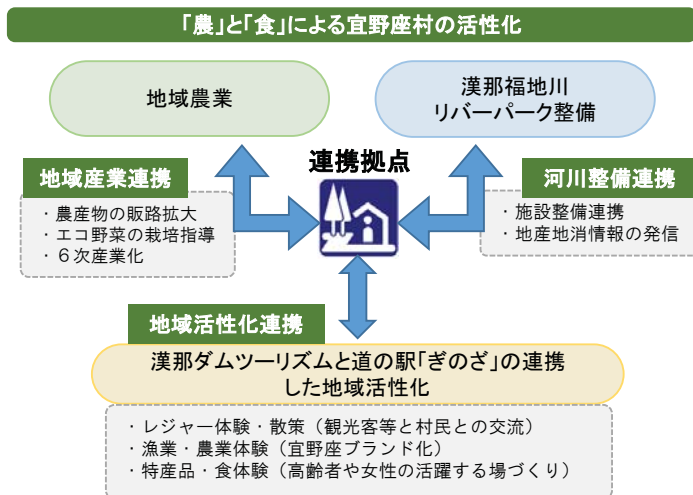
<実施内容>

- 「ええね美馬！」や「宅配サービス」を活用
- 「阿波尾鶏」、「地域野菜」を使用
- 地元産品を利用した商品開発
- 「防災ヘリポート」を整備
- 外国人来訪者に対する通訳案内対応

- スーパーや食堂等が無い地域に、地場農産物の情報発信や、ぎのざエコ野菜を活用した施設（レストラン）整備による地産地消の促進。
- 県内道の駅唯一のボランティアプランナー※1が実践する無農薬野菜や特産品の苺等の6次産業化による農家所得の向上。
- 道の駅に隣接した漢那福地川リバーパークやダムツーリズムに訪れる観光客と村民が交流できる地域コミュニティの創出。

※1 農林漁業者の身近なところでアドバイスやメディアへの情報発信を行う6次産業化の実践者（農水大臣任命） ※1（ぎのざ駅長） 農林漁業者の身近なところでアドバイスやメディアへの情報発信を行う6次産業化の実践者

地域福祉 地産地消施設整備による住民サービスの向上	産業振興 宜野座野菜の付加価値の向上	交流・連携 ダムツーリズムとの連携による地域活性化
------------------------------	-----------------------	------------------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ぎのざ	沖縄県	宜野座村	国道329号	既設	平成26年度	単独型



<実施内容>

- 漢那福地川リバーパークと連携した地産地消活動の場づくり
→地産地消施設の整備、食育の実践・地産地消情報の発信
- 宜野座村の農業促進、6次産業化の実施
→宜野座エコ農産物の販路拡大、営農指導や生産者交流の実施、宜野座エコ農産物の6次産業化の促進
- 漢那ダムツーリズムと道の駅「ぎのざ」の連携した地域活性化
→観光客等と村民との交流、地域コミュニティの促進
主婦等の女性や高齢者の活躍する場づくり

<提案の先駆性・ポイント>

- 「道の駅」が各種施策の連携拠点となり、地域の活性化を推進
- 宜野座村の宜野座エコ農産物や人材資源等を活用し、「食育・地産地消活動」の促進と農家所得の向上

○エリア内に集積する施設を活用し、「賑わい」と「見守り」を基本コンセプトとする「産業振興」「地域福祉」「防災」の3機能を有する『地方創生拠点』(小さな拠点)を形成
 ○道の駅「よこはま」エリアと(仮)横浜ICの直結により、自動車専用道路への休憩サービスを提供



産業振興 「賑わい」ステーション		地域福祉 安全安心な住民サービス提供		防災 地域防災力の強化		
駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
よこはま	青森県	横浜町	国道279号	既設	平成11年	一体型

【産業振興】

- 農協や漁協等5団体が加工センターを利用し、地産地消に取組み、300品目以上を出品
- ナタネ油は農林水産大臣賞を受賞
- オリジナル商品開発、ブランド化の加速
- 地場産品を活用した6次産業化や集荷サービス等導入による直売所の充実



【地域福祉】

- 高齢者など住民への宅配・送迎サービス
- 宅配・集荷サービス等とあわせて見守り・声かけサービス
- エリア内施設(除雪ステーション、小中学校、(仮)横浜IC)連携による防災ヘリやドクターヘリの発着場の複数確保



【防災】

- H24豪雪時、沿道住民が支援活動、道の駅よこはまでは避難者を受け入れ
- 自衛隊、警察、消防等の広域支援部隊が参集する後方支援拠点機能強化
- 災害時等の受け入れ体制の確保(防災備蓄倉庫・非常用電源等)
- 自動車専用道路との直結で、災害時の防災拠点として迅速な対応が可能



【道路休憩施設】

- 道の駅とICを直結し、休憩サービス提供、地域振興を図る整備方針(H26合意)
- 駐車場やトイレの拡張や道路情報提供の充実を提案



(EV急速充電器 H24.1~)



(提案メニュー：道路情報提供の充実)

<提案の先駆性・ポイント>

- エリア内に多数集積する既存施設も活用し、小さな拠点を形成。既存施設：小・中学校(避難所・非常用電源)、河川公園、給水施設、交流館、特産品加工センター、惣菜棟、コンビニ、GS等
- 自動車専用道路と直結で、休憩サービス機能を向上。
- 日本一の菜の花ブランドで地産地消の取組を加速。
- 東日本大震災や豪雪災害では自衛隊等の防災拠点として機能。

<実施内容>

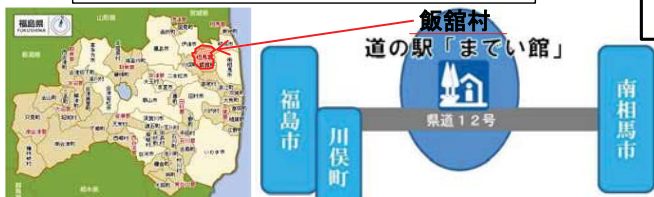
- 産業振興：地場産品を活用した6次産業化や直売所の機能強化、道路利用者への休憩サービス提供の充実
- 地域福祉：高齢者など地域住民への宅配、送迎サービス、防災・ドクターヘリ発着場として除雪ステーションを活用
- 防災：後方支援拠点や避難施設として、受入体制、受け施設、バックアップ機能を確保。

道の駅「(仮称)までい館」

福島県飯舘村

— 原発災害からの帰村時の日常生活を支え、産業復興を図る場として、復興拠点となる道の駅整備 —
 ○避難指示解除後の帰村に即応し、生活必需品販売施設等を備え、帰村をサポートする拠点として整備する
 ○村基幹産業である農業の復興のため、「花」をキーワードに先進的取組を実施・PRし、就農や営農再開を支援する

位置図



生活を支える地域福祉拠点
帰村に即した需要に対応

産業復興の先進的取組
先進技術による花づくりで農業復興

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)までい館	福島県	飯舘村	県道12号	新設	平成29年	一体型

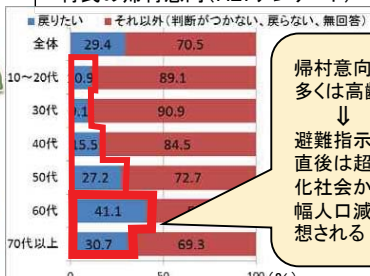
土地利用構想図



避難指示区域の状況



村民の帰村意向(H27アンケート)



<提案の先駆性・ポイント>

- 放射能という特異性から、帰村人口の大幅減が見込まれる中で、「人」「もの」「情報」が集まる道の駅を復興拠点として整備する
- 商店、金融機関の再開の目途が立たない中、帰村時の村民の日常生活を支えるための施設を整備。また、高齢者等交通弱者のために宅配等を実施する。また、役場や医療機関等と連携し、帰村をサポートする拠点とする
- 産業、特に農業復興のため、食べ物より放射線や風評被害の影響を受けにくい「花」をキーワードにした営農再開を進めるための拠点

<実施内容>

- 【地域福祉】：帰村時に即応する日常生活必需品確保のための商業施設整備 村民の帰村生活を支援し、高齢者等交通弱者のための宅配サービス、ATM設置による金融サービス等を実施
- 【産業振興】：エリア内施設で先進技術による高価値の花苗を栽培し「までい館」で展示・直売。村民への苗・技術提供による営農再開支援
- 上記に加え、「戻らない人」「村を応援したい人」をつなぐ「ネットワーク型の新しいむらづくり」の拠点として、事業やイベントを企画・実施

※帰村：原子力発電所事故により村外へ避難している村民が、避難指示解除後に村内に帰還すること。 図は平成29年3月に避難指示解除を目指すとした方針を示している。

- 買い物困難者への宅配サービス提供、「子ども文化教室」による子育てサポート、高速バスや町営バスの停留所、外国人観光案内所(カテゴリー2)や防災等の機能を道の駅に集約し、小さな拠点を形成。
- 伝統的特産物「下仁田ネギ」の道の駅自らの6次産業化による食文化継承。

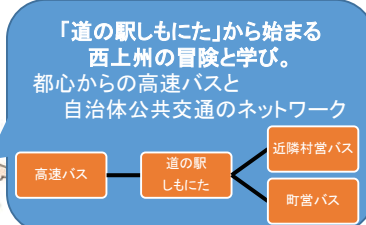
「道の駅」でつながる西上州の防災と観光
 西上州4町村で道の駅包括連携協定をH27.7月に締結
 下仁田町 ゲートウェイと伝統野菜 ※外国人案内所カテゴリー2を申請中
 南牧村 滝めぐりと田舎暮らし
 上野村 イノチ料理と鍾乳洞
 神流町 川と恐竜の自然と歴史



**「道の駅」×「ネットワーク」
 = 地域防災の中心軸
 後方支援施設と避難施設設置**

産業振興 担い手づくりの実践	地域福祉 買い物困難者への宅配サービス	交通結節点 高速バス、村営バス等 地域公共交通拠点化	防災 エリア全域の安心創造	観光総合窓口 外国人対応とワストップ
--------------------------	-------------------------------	---	-------------------------	------------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
しもにた	群馬県	下仁田町	国道254号	既設	平成15年度	一体型



移動する「道の駅」
 買い物困難者への宅配サービスの実施
 来場を待つだけでなく都市圏や観光地へ4町村「道の駅」連携が出向いての販売

伝統を次世代に継ぐ
 江戸時代より継承されてきた地域特産を、限られた時期以外でも、新たな名菓などに加工し通年販売できる。
 『6次化を担う道の駅』

子育て応援「道の駅」
 「子ども文化教室」を併設。道の駅には「こどものお迎え」と「夕飯のお買いもの」

<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅が自ら伝統野菜の生産・加工・販売を担い安定供給する。
- 地産地消を目的とした伝統野菜のメニュー開発
- こどものお迎えと買い物効率が急増、家庭の笑顔が急増。
- ワストップ窓口設置により効率的な情報入手。
- 峠に入る前の安心防災施設。道路情報は道の駅でゲットする。
- 高齢化社会への対応「行商」の復活と御用聞き「道の駅」。

<実施内容>

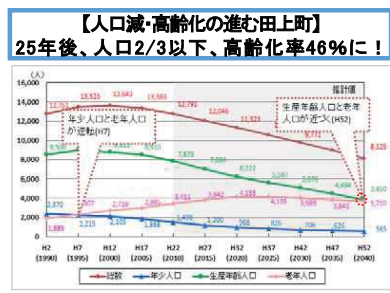
- 「道の駅しもにた」の指定管理者による農業生産と加工販売。
- 給食への利用や道の駅内に農家レストランの設置。
- 「子ども文化教室」を道の駅内に設置し、子育て生活サポート。
- 連携町村の「観光・移住・就農」情報をワストップ窓口で提供する。
- 防災情報周知機能と緊急避難防災施設整備。
- 「移動道の駅」事業を行い買い物困難者へサービス提供。

- 「近き者よこびて、遠き者来る」をコンセプトとした、にぎわい・交流の拠点となる道の駅。
- 公共サービス、生活サービス等の集約、(仮)地域交流会館の整備により、町民の日常生活、いきがい、健康を支えるにぎわいの拠点。
- 町内の農業、商工業関係者、地元大学等との協働事業により、地域の魅力を内外に発信する交流の拠点。

地域福祉 公共サービス・生活サービス等を集約	交流・連携 地元大学との連携	産業振興 地域の魅力を発信する拠点を創出
----------------------------------	--------------------------	--------------------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)たがみ	新潟県	田上町	国道403号 バイパス	新設	平成32年度 (予定)	一体型



内なる魅力を発信し、外との交流を促進！

<提案の先駆性・ポイント>

- 地元大学との連携**
 ・田上町と地元3大学(新潟薬科大学、新潟経営大学、新潟中央短期大学)が連携協定を締結し、計画段階から参画
 ・地域活性化の担い手となる人材育成、若者ならではの視点を活かした地域づくり、「道の駅」の新たな価値の創出の促進
- 高齢者の社会参加の促進**
 ・高齢化が進む中で、高齢者が社会参加し、活躍・交流できる場を確保

<実施内容>

- にぎわいの拠点づくり**
 ・多くの町民の生涯学習や交流の拠点となる(仮)地域交流会館の整備
 ・商店やATM等の生活サービス拠点の整備
 ・道の駅と集落地域等を結ぶ公共交通・宅配サービスの導入
 ・高齢者が元気に社会参加できるための健康づくり支援【大学連携】
- 交流の拠点づくり**
 ・町内の農業・商工業関係者等との共同事業【大学連携】
 ・地域の魅力を活かしたイベント・情報発信【大学連携】

- 「道の駅」から高齢者宅への宅配サービスを通じた買い物支援や安否確認のほか、町民バスと連携した通院・公共機関等への外出支援など、中山間地の生活を支援
- 「道の駅」の販売力、情報発信力を活用し、直営農場の運営や第6次産業の育成を図り、雇用の確保・定住化を促進
- 「祭り」、「農業体験・農家民泊」等、多様な地域資源を生かした観光・体験メニューを「道の駅」から情報を発信

地域福祉 高齢者の生活支援、安心して暮らせる町づくり	産業振興 特産品の直接販売・加工販売を中心に地産地消の促進	観光総合窓口 観光・地域情報のワンストップサービス
-------------------------------	----------------------------------	------------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
信州新野千石平	長野県	阿南町	国道151号	既設	平成12年	一体型



<提案の先駆性・ポイント>

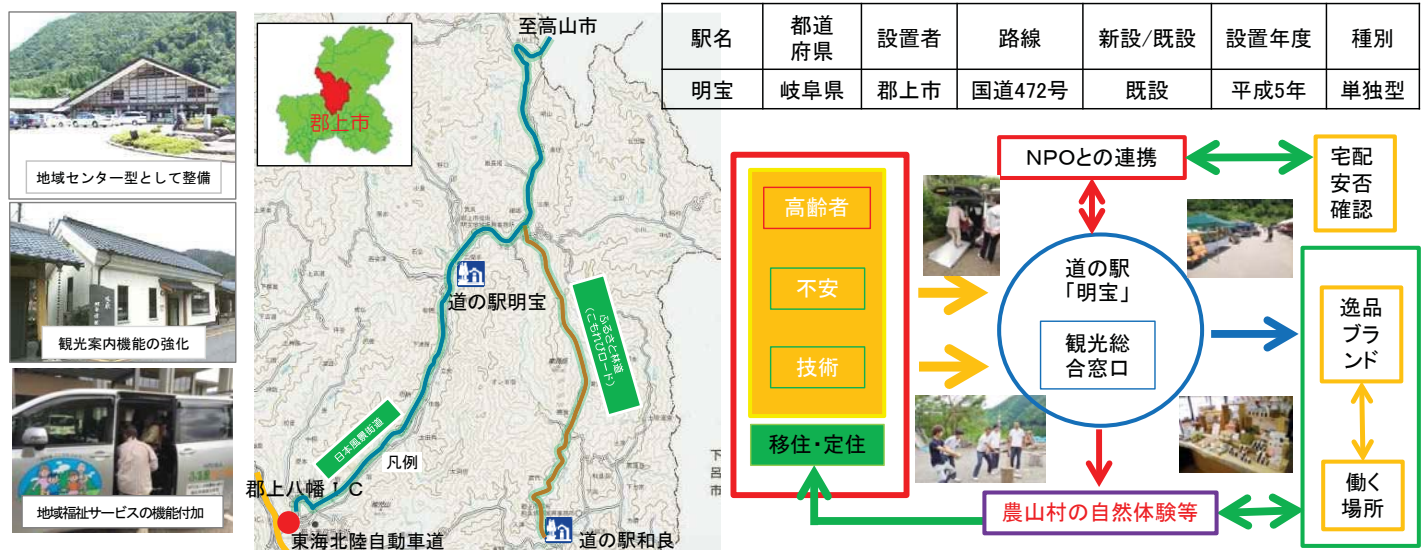
- 地域の高齢化に対応し、「道の駅」を経由するコミュニティバスにより、通院や公共機関へのアクセスを確保するほか、移動販売や宅配サービスを通じた安否確認など、地域を支える「小さな拠点」として機能
- 「道の駅」の訴求力を活用して販売力を強化し、地域の多様な主体(生産・加工・流通・販売)が連携して生産力を高めることにより、地域産業の活性化や雇用拡大、生産量の向上に寄与し、農村地域の暮らしの安定を図る
- 当地域が有する体験交流機会を道の駅から発信し、観光交流の拡大や農村地域の魅力を発信

<実施内容>

- 「道の駅」からの移動販売・宅配サービスによる安否確認
- 周回バスの運行による高齢者等の外出支援
- 「道の駅」でのイベント・健康促進教室・祭り等の開催
- 農産地の拡大、養液栽培の導入による、生産・販売力の強化
- 観光コンシェルジュを専属配置し、ワンストップサービスの実施
- 「道の駅」駐車場の拡張、トイレの改修

- 「道の駅」とNPOが連携し、NPOの福祉運送サービスにより高齢者等買い物難民に対する日用品の配達及び生活支援サービスを提供
- 「道の駅」に観光コンシェルジュを配置し、地域総合窓口の機能を付加するほか、自然体験、農山村の暮らし体験の提供
- 「道の駅」内にある施設で集落に残る山村生産用具等の展示と活用を進めることで、高齢者の生きがいづくりと活躍の場を創出

地域福祉 高齢者の安否確認	観光総合窓口 観光案内機能強化	地方移住等促進 空き家情報等のワンストップ化
------------------	--------------------	---------------------------



<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅を配送拠点として、NPO法人が新たに買物支援を加えた生活支援サービス新たなシステムが確立する。
- 観光コンシェルジュを配置し、観光客に、農家民泊の受け入れ等の企画提案する。
- 高齢者が縄ない実演や語り部として活躍の場を創出する。

<実施内容>

- 地域内で活動するNPO法人ふる里めいほうと連携した商品の配達と安否確認。
- 道の駅機能を活用した旅行企画の提案および農家民泊及び自然体験等若者を対象とした取り組みの実施。
- 観光客に対し、地元高齢者が講師となる農作業体験の実施。
- 地元高齢者が縄ないの実演や物産施設内で語り部として地域をPR。

- 地域福祉機能(病院・老人福祉施設等)や交流連携機能が「道の駅」に集約されており、子供から高齢者まで幅広い方々が集まる地域のコミュニティ拠点を形成。
- コミュニティバスややすらぎ館、公園施設や高齢者宅配サービス等の機能拡充により、小さな拠点化を高度化。

地域福祉 高齢化・少子化に対応	交通結節点 交通サービスの提供	防災 高度な防災機能化	観光総合窓口 インバウンド観光・地域観光の総合窓口	交流・連携 やすらぎ館の拡充
--------------------	--------------------	----------------	------------------------------	-------------------

①地域福祉

①-1宅配サービス・見守り
地元スーパーと連携し宅配、見守り

①-2子供が安心して遊べる公園
安心して散策、遊べる見通しのよい空間、多目的トイレ

①-3 三次救急医療の提供
岐阜大学医学部附属病院と連携したドクターヘリによる救急医療

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
飛騨金山ぬく森の里温泉	岐阜県	下呂市	国道256号	既設	平成12年	一体型

②交通結節点

②-1コミュニティバス
バス停を道の駅に配置し、デマンド機能で地域住民の利便性を向上

②-2機能の充実
EV充電機能を追加し機能の充実

⑤交流・連携

⑤-1やすらぎ館拡充
施設内容の充実スーパー機能を追加し、地域住民の利便性を向上

③防災

③-1ヘリポートとの連携
既存のヘリポートを利用し、災害時に高度な対応を行う

③-2太陽光発電・防災倉庫・防災トイレ
太陽光発電の増設により、施設の電力をカバー

- <提案の先駆性・ポイント>
- 地域課題である少子高齢化に対応し、見守りも兼ねた「宅配サービス」や「コミュニティバス」による移動支援や子供から高齢者まで、幅広く利用できる施設整備
 - 防災機能の向上のため、外からの物資等の運搬の確実性の向上と拠点化
 - 下呂市の強みを更に生かすため、インバウンド対応も含めた観光案内
 - 地域コミュニティの場となるよう集客アップのための機能向上(スーパー、日用品等日常機能充実)
- <実施内容>
- 「道の駅」から高齢者向け宅配サービスによる見守り支援
 - ふれあいパークの整備と多目的トイレの設置
 - ドクターヘリによる救急医療提供に向けた連携
 - 「道の駅」にコミュニティバスのバス停配置、デマンド機能設置
 - EV充電機の設置
 - 災害時の高度な対応に向けたヘリポートとの連携
 - 太陽光発電増設・防災倉庫設置・防災機能付きトイレに改修
 - リバーサイドスポーツセンターに太陽光発電の増設
 - 朝取横丁の横に観光案内所を新設
 - 外国人対応パンフレット作成、電話対応に向けた連携
 - やすらぎ館の拡充

- 高齢者等の交通手段確保のための市内各所を循環するコミュニティバスの運行、ICTを活用した買い物支援による地域福祉の向上
- 菊芋等の地元産品を活用した新たな商品開発による地産地消の促進、チャレンジショップによる企業支援と雇用創出
- 「相撲発祥の地」のPRや當麻寺などの地域資源を活かした観光振興でインバウンド観光を推進し、地域を活性化

観光総合窓口・インバウンド観光 相撲観光創造による観光振興とインバウンド観光の促進	産業振興 チャレンジショップによる新たな起業と雇用の創出	産業振興 新規就農者支援による農業振興	交通結節点 道の駅をハブとするコミュニティバスの運行	地域福祉 ICT(情報通信技術)を活用した買い物支援
--	---------------------------------	------------------------	-------------------------------	-------------------------------

【道の駅施設配置図】

【地域振興棟イメージ】

【相撲観光振興と英語版パンフレット】

【大和かつらぎ就農塾】

【ICT買い物支援のイメージ】

【菊芋コロケと地元の地域活性化推進グループ】

- <提案の先駆性・ポイント>
- 道の駅を活かし、起業や新たな農産加工品の販売を支援します。
 - 既存施設の相撲館と連携し、新たな観光客を呼び込むことで観光振興を図り、インバウンド観光を促進します。
 - ワンコインで市内を循環できるコミュニティバスを利用し、市内各拠点へのアクセスが可能になります。
 - ICTを活用した買い物支援により、市内の買い物弱者を支援を行います。
- <実施内容>
- 活力ある市民の起業機会を提供するチャレンジショップの設置
 - 直売所による農産品の新たな販売チャンネルの創出
 - 相撲観光創造による観光振興とインバウンド観光の推進
 - コミュニティバス乗り入れによる市内拠点へのアクセス確保
 - ICT(情報通信技術)を活用した買い物支援システムの導入
 - 加工所を活用した農産品の6次産業化の推進

○「道の駅」内に高齢者等の相談窓口を設置し、バス停整備等による移動支援等もあわせて行うなど、地域住民の生活サポート体制を構築。
 ○新たに移動販売等の拠点を設けて交流機会を創出し、高齢化の著しい山間地の「買物弱者」、「交通弱者」対策とともに、より小口の生産物の持込・集荷を促して地産地消、高齢者の社会参画を支援する。

地域福祉	交流連携	交通結節点	産業振興
運送業との連携による地域サポート体制の構築	中山間地域の交流拠点整備、新たなコミュニティ形成	移動販売車の増車及び路線バス専用バス停整備	地場産業の振興及び地場産品の販路拡大

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ソレーネ周南	山口県	周南市	国道2号	既存	平成26年	一体型



■周南市が抱えている課題
 中山間地域で進行する高齢化
 面積：約7割 人口：約1割
 高齢化率：40.5%
 高い地区では70%超(H26.3.31)

■道の駅
 ・交流連携拠点
 ・地域福祉拠点
 ・交通結節点



■道の駅が媒体となって周南市全域の社会活動を支援

○高齢者を元気にさせる取り組み 高齢者相談窓口の設置



- ★専門員(看護師)を配置。医療、健康、介護の相談窓口
- ★介護予防教室、サロンなどの交流の場の設置
- ★路線バス バス停を整備。交通弱者への配慮。

○オール周南を目指す取り組み



中山間地での集荷サービス
 「道の駅」による取り組み



「道の駅」による買物弱者への移動販売



中山間地での集荷サービス
 宅配業者の集荷ルートと連携した取り組み



周南市の特色を活かし、道の駅で次世代エネルギー供給の実験を実施

<実施内容>

- 道の駅に高齢者相談窓口の設置
- 中山間地域への集荷・移動販売を実施
- 中山間地域でのミニコミュニティ組織の形成
- 次世代エネルギーとして、移動式・スマート水素ステーションの誘致を検討

<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅を媒体とし、中山間地域での小さな拠点づくりを形成
- 水素先進都市として、「水素」の利活用を検討

○道の駅を拠点に地域福祉の向上と地域住民の安全安心な地域コミュニティ再生による行政サテライト機能の充実
 ○農産物の信頼性をさらに向上するためのトレーサビリティ(*)を活用した農産物管理システムの構築による地産地消の促進
 ○空き家バンク制度を活用した移住定住等の促進

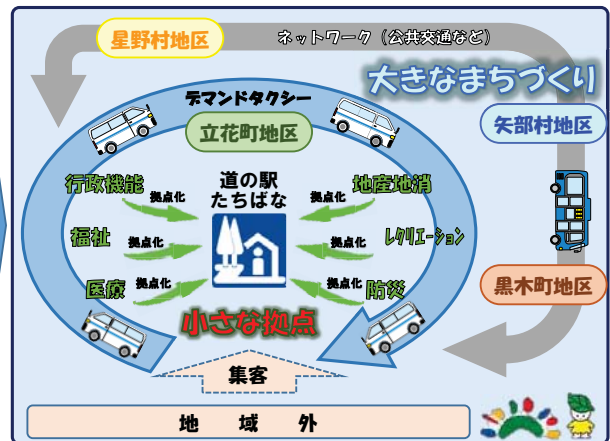


産業振興	地域福祉	交流・連携及び地方移住等促進
充実した直売所で地域産業の活性化	地域生活環境の維持・向上	竹林公園で広域的な交流と連携、行政のサテライト機能を構築

<課題>

- ①地域の生活環境の低下と地域コミュニティの存続危機
 九州自動車道の開通により国道3号の交通量が減少し沿線の店舗等が衰退するとともに、広域合併により学校等の統廃合や路線バスの運行形態も縮小され、地域コミュニティの存続が危ぶまれている。
 なんでも(施設)がなくなって、寂しくなりました。日用品を買うところがなくなって、困っています。(八女市立花地区の住民の声)
- ②基幹産業である農業の低迷、活性化に向けた中核拠点が不在
 少子高齢化や農家の後継者不足、嫁不足、地場産業の衰退、限界集落の発生により、農業人口が減少し農地(田畑)や山林が荒廃しているとともに、地域の活性化に不可欠な中核拠点が不在な状況である。

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
たちばな	福岡県	八女市	国道3号	既設	平成16年	一体型



<提案の先駆性・ポイント>

一人暮らし高齢者の安全安心な暮らし実現の先駆モデル
 これまで 行政、福祉、医療施設へ利用者が個別に赴く
 これから(提案) 道の駅に行政窓口や福祉に関するサテライト施設を設けることで、地域福祉の向上と魅力的な交流を創出

<実施内容>

- 道の駅を拠点に、地域福祉の向上と安全安心コミュニティの再生
 ⇒行政のサテライト機能の構築、地域交流・地域福祉・地域交流の拠点化の構築、宅配事業者と連携した集荷・配達業務の構築、日用品の調達
- 魅力ある交流と連携による創造から定住促進へ
 ⇒定住促進に向けた行政サービス、消費者や他の道の駅との交流活動の推進、交流施設の整備、大学との連携
- 品質の高いこだわりの地産物の農作物の販売と地産地消の推進
 ⇒地産地消の推進強化、6次産業化の促進による魅力的な商品開発、販売ブースの改修、遊休農地の利活用の推進

- 地元特産品である「そのぎ茶」等のブランド化や隣接する加工場を活用した商品開発により地産地消の促進
- 障害者支援施設が行う移動販売車による買物支援と「道の駅」への集出荷を連動させた買物支援システムの確立
- ふるさとまちづくりセンター（仮称）を創設し、「道の駅」に総合窓口を設置し空き家バンク制度を活用した移住定住等の促進



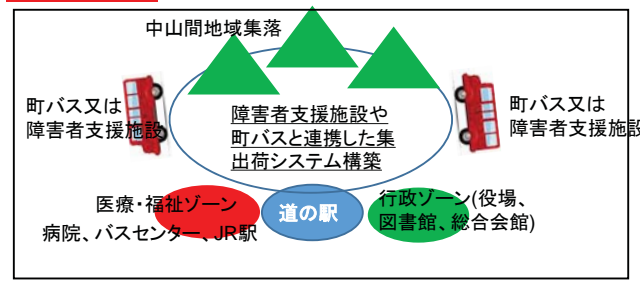
「彼杵の荘」

産業振興 6次化商品開発販売	地域福祉 生きがいつくり	防災 一体型防災拠点整備	観光総合窓口 観光資源のPR	地方移住等促進 一流の田舎暮らし
--------------------------	------------------------	------------------------	--------------------------	----------------------------



道の駅物産館入口

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
彼杵の荘	長崎県	東彼杵町	国道205号	既設	平成13年	単独型



▲ 障害者支援施設の移動販売者と連携



観光総合窓口整備

◀ 歴史民俗資料館 伝統芸能紹介

◀ 田舎暮らしプロジェクト 空き家紹介

▼ 移住・定住案内



<提案の先進性・ポイント>

- 障害者支援施設との連携を図り、高齢者の生きがいつくりを推進する。
- 浮立や人形浄瑠璃など伝統文化を活かした交流の推進
- 国交省と連携し、地域防災機能の強化を図る。

<実施内容>

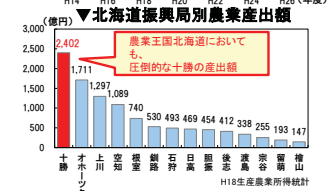
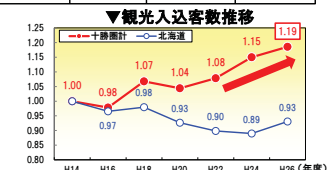
- 地域福祉支援団体等と協力して、集出荷等を行うシステムの構築
- 伝統芸能を紹介するなどの観光総合窓口の整備
- ふるさとまちづくりセンター（仮称）の創設を行い、窓口を整備
- 防災機能の向上（発電機施設、備蓄倉庫、防災用トイレの整備）

- 全国シェアの3割を占める十勝の馬鈴薯、道内1位の飼養頭数を誇る牛肉等を東京を始め全国各地へ出荷する等、農業生産額300億円を超える「農村ユートピア・士幌町」として新商品の開発、直売所の整備により情報発信機能を強化。
- 地元教育機関と連携した商品開発などを通じた地域産業の活性、多様な雇用の創出。

産業振興 地域の特産品を活かした産業振興	交通結節点 路線バスとコミュニティバスの結節	防災 一時避難所と防災備蓄倉庫	観光総合窓口 情報発信拠点とふるさと納税窓口
--------------------------------	----------------------------------	---------------------------	----------------------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ピア21しほろ	北海道	士幌町	国道241号 国道274号	既設 移転	平成9年	一体型



<提案の先進性・ポイント>

- 地元農畜産物（馬鈴薯、しほろ牛肉、小麦等）の価値を高めるため、JA、商工会、農家団体、地元高校と新商品開発、オリジナル商品製造により6次産業化を推進。農産物直売所、地場産品施設を整備し、地場の野菜及び農畜産物加工品の販売を行い、高齢者の生きがいつくりの一環として野菜づくり、手作り加工品づくりを支援し、道の駅で販売を行う。
- 町立士幌高校は士幌町が一つになって取り組む新たな士幌町活性化プロジェクト「士幌町=志プロジェクト」を進め、大学との連携を図り、新商品開発による士幌ブランド化した商品のラインナップを増やし近隣事業者による事業化に向けた可能性を広げ地域産業の活性に弾みをつけ、多様な雇用の創出を行う。

<実施内容>

- 地元高校生による新開発商品の発信の場として、地場産品販売所及びイベント対応可能なゆとりある休憩コーナーの整備。
- 地元農畜産物の士幌ブランド化を推進する為、農産物直売所及びその場で味わえるカフェレストランの整備。
- 農・商・工・学が連携して、より積極的に地産地消を推進するため「士幌町=志プロジェクト」を展開する。
- 高齢者の生きがいつくりとして野菜づくり、手作り加工品づくりを支援し、道の駅で販売
- バス停の集約化による 公共交通の結節点として地域住民に交通サービスを提供。
- 厳冬の暴風雪時の国道通行止め等による、道路利用者の一時的避難場所として機能する防災拠点。
- 観光協会を軸として、我が町魅力発信となる総合案内所を設置し、きめ細かい情報提供、周辺観光及び北十勝4町連携の広域観光のゲートウェイとしての機能を充実。

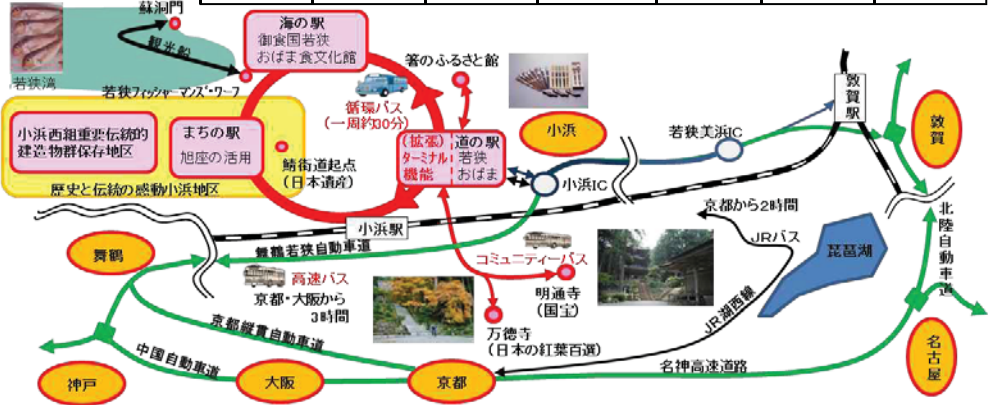
- SA空白区間の中間に位置する小浜ICに隣接した立地を活かした交通結節点機能を強化(バスターミナル機能拡張、パーク&ライド)し、旅行会社と連携した新たなツアーの創出
- 道の駅を拠点に、観光コンシェルジュが同乗した循環バスによる「海の駅」、「まちの駅」との3駅連携による賑わいの創出
- 特産品である鯖等を活用したさば玉等の新商品の開発や郷土料理(へしこ、鯖のなれずし等)教室による地産地消の促進
- 既存の観光ルート情報を道の駅に集約化し、嶺南地域や隣接する滋賀県、京都府も含めた広域総合案内機能を付加

「海の駅」: 若狭渚の箸砥ぎ体験等ができる食文化館の建物を中心にした施設
 「まちの駅」: 重要伝統的建造物群保存地区に隣接した明治時代の芝居小屋
 ※隣接して平成27年4月に日本遺産第1号に認定された「鯖街道」の起点が存在

※既存の観光ルート
 丹波・若狭街道(綾部市~おおい町~小浜市)
 鯖街道(小浜市~若狭町~高島市)

観光総合窓口	交流・連携	インバウンド観光	交通結節点
3駅が連携したSSA	御食国、歴史を活かした交流	京都・大阪から近くにもう一步	ターミナル機能の拡張

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
若狭おばま	福井県	小浜市	主要地方道 小浜上中線	既設	平成22年度	一体型



<提案の先駆性・ポイント>

- 小浜ICに隣接している特性を活かし、小浜市のゲートウェイとして「海の駅」、「まちの駅」を合わせた3駅が連携することにより、市内全体をスロースーパリエリアとして質の高いサービスを提供する。
- 整備された道路(社会資本ストック)の効果を加速させる拠点の整備
- 二次交通の充実を図り、パーク&ライド機能を備えた交通結節点の構築

<実施内容>

- 道の駅にターミナル機能(暫定)を拡張。
- 3駅を巡る循環バスの運行、コミュニティバスの既存路線を一部変更した観光スポットへの誘客。
- 既存の高速バスによる外国人観光客に対応する外国人観光案内レベルの向上(現在:パートナー施設)
- 将来の舞若道を通する高速バス増とターミナル機能(完成)を拡張。

- 高齢者が生産する葉野菜の農産物の集荷、全国への配送及び食料の配達、安否確認等高齢者の生活支援を「道の駅」が実施
- 「道の駅」直営農場を整備し、ハウス栽培等野菜栽培技術の向上を図ることで、地域の農業振興及び就農による定住化の促進
- JR紀勢線、高速バス、路線バスの結節点における行政、文化、観光、医療サービスの拠点を形成

産業振興	地域福祉	交通結節点	駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
観光誘致と物産振興	見守りといきがい	人と物の流れを拡大	奥伊勢おおい	三重県	大台町	国道42号 町道東出4号線	既設	平成11年	単独型



<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅奥伊勢おおい(株)による直営農場を設置し、生産者への技術還元を行いながら地域の農業生産の向上と地産地消を推進する
- 道の駅を拠点に観光誘致と物産流通を拡大する
- 道の駅による農産物等の集荷体制により、見守りや物資配達などの高齢者の生活支援を行う
- 交通結節点における行政、文化、観光、医療サービスの拠点を形成
 《地域に支えられ地域に貢献し、憩える駅》

<実施内容>

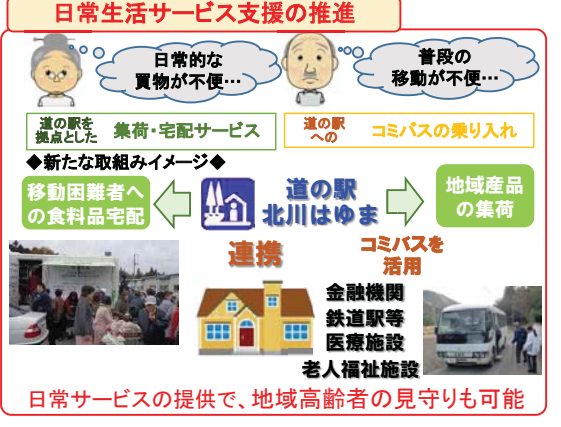
- 遊休農地を活用して「道の駅」直営農場を設置し、地域の農業生産に貢献するとともに、地域おこし協力隊等の外部労働力を受け入れ、就農と定住支援を行う。
- 道の駅による農産物の集荷、集積体制を整備するとともに、集荷体制による地域内への巡回過程で食料や生活物資の配達、安否確認等の高齢者の生活支援を行う。
- 交通結節点として利便性を向上するため車両導線の改良やバス待合等の敷地整備を行う。
- 防災機能強化及び災害情報、避難手段等の緊急時の情報提供機能を充実する。

- 東九州自動車道の開通という好機を活かした地方創生 ～小さな拠点による持続可能な地域づくり～
- 「道の駅」を拠点とした集荷・宅配サービスやコミュニティーバスネットワークによる「ふるさと集落生活圏」の形成
- 地域の特色を活かした地元高校、大学と連携した特産品開発などによる地元雇用の促進
- 市内3駅の管理運営による中山間地域の特色を活かしたサービスの提供

産業振興 地域性豊かな産品開発	地域福祉 生活サービス支援の推進	交通結節点 コミバスと高速バスの乗継とP&R整備	防災 施設拡充整備による防災拠点化	観光総合窓口 地域の魅力を総合的に発信	地方移住等促進 職場体験を通じた地元高校生の雇用	交流・連携 地域間連携で地域色豊かな体験交流
---------------------------	----------------------------	------------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	------------------------------------	----------------------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
北川はゆま	宮崎県	延岡市	国道10号 東九州道	既設	平成6年	一体型



＜提案の先駆性・ポイント＞

- サービスエリアとしての機能を充実させ人の流れを創出します。
- 観光地へ誘導するハブ機能を充実させます。
- 地域の特色を活かした特産品開発で生産意欲を向上させます。
- 高齢者の日常生活の利便性向上を図ります。
- 立地条件を活かした防災拠点としての充実を図ります。
- 高校生に就業体験の場を提供し地元での雇用を促進します。

＜実施内容＞

- 駐車場の拡充や配置計画、休憩機能の見直しを行います。
- 観光情報発信機能の充実と観光ナビゲータの育成を図ります。
- 歴史や神話、地域特有の産物を活用した特産品を開発します。
- 集荷や宅配などの生活サービス支援を進めます。
- レストランを拡張し避難施設としても活用できるように整備します。
- 実演販売や料理の提供など交流や体験の場を提供します。

- 南海トラフ地震等に備えるため、「道の駅」を『豊橋市地域防災計画』に位置づけ、防災活動拠点として整備
- 「道の駅」において、高齢者の参画する交流イベントの開催や、買物・飲食・休憩(交流)等日常生活を支援するとともに、「道の駅」と福祉関連施設をコミュニティバス等で結ぶことで地域福祉を推進
- 大学と農家、地元企業等が連携し、豊橋市の特産である次郎柿等を使用した「道の駅」限定の商品開発(6次産業化)を実施

防災 広域・地域の防災活動拠点	地域福祉 交流拠点、交通結節点	産業振興 地産地消、6次産業化による雇用創出
---------------------------	---------------------------	----------------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)とよはし	愛知県	豊橋市	国道23号 (豊橋東BP)	新設	計画中 (平成29年)	一体型



＜提案の先駆性・ポイント＞

- 環境に特化した地産地消型エネルギーインフラの整備、救済部隊活動・自衛隊後方支援・物資提供等の防災活動拠点機能の付加、隣接する緊急輸送道路(国道23号)による東三河南部、静岡県西部における機能損失の低減
- 高齢者の医療や健康や買物等の日常支援、地域福祉に貢献する教室の開講
- 多方面から知恵と情報を集め消費者ニーズの把握と研究等を通じて次世代の地域農業を担う人材の育成、売れる6次産業化商品の開発、農業の魅力発信と人・知恵・情報の集結による新事業の創出等農業と関連産業の活性化を図る

＜実施内容＞

- 太陽電池・蓄電池・管理装置等の設置、物資等の備蓄倉庫の整備屋内には救済部隊の合同指揮本部、屋外には救済部隊の一時集結ベースキャンプの場を提供
- 周辺地域・道の駅・周辺施設をコミュニティバスや路線バスで接続 プロジェクト施設で健康長寿教室等を開講
- 大学等と連携し、若者・女性など次世代の農業者等のスキルアップ、農家と地元企業等が連携した「道の駅限定おみやげ開発プロジェクト(6次産業化)」による地産地消を進める商品づくり

道の駅「(仮称)恐竜渓谷ジオパーク」

福井県勝山市

- 世界三大恐竜博物館の一つである福井県立恐竜博物館や西日本最大級のスケールを誇るスキージャム勝山の集客力(年間約100万人)を活かした観光・交流拠点の整備
- 鮎などの川魚や里芋などを地域ブランド化し、新たな特産品(「かつやま逸品」)を開発・販売することで地産地消を促進
- 市内10地区をそれぞれの特色を活かしたジオパーク(まちまるごとジオパーク)とし、コミュニティバスによる周遊ツアーを実施することで都市住民との交流を促進



観光総合案内 県内観光コンシェルジュ		産業振興 地域資源の有効活用		交流・連携 行政サテライト機能		
駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
(仮称)恐竜渓谷ジオパーク	福井県	勝山市	県道勝山インター線 主要地方道勝山丸岡線	新設	平成32年度	一体型



<提案の先駆性・ポイント>

- 勝山市の玄関口に道の駅を整備し、恐竜博物館などの集客力を活かして情報発信を行うことで、市内の観光地等へ誘客
- 恐竜や鮎などの地域資源をブランド化し、新たな特産品を開発(6次産業化)
- 「観光まちづくり会社」の設立により新たな雇用を創出し、人材を育成
- 訪問者の8割が自家用車利用であり、道の駅に交通結節点機能を付加することで効果的に市内に誘客するとともに、高齢者等の交通弱者の利便性を向上
- 都市住民を呼び込むツーリズム事業を展開し、都市との交流を促進し、交流人口を拡大し、定住を促進

<実施内容>

- 観光コンシェルジュを配置した総合観光窓口の設置
- 多言語案内、無料公衆無線LAN等のインバウンド対応
- 地域資源や地元産品を活用した特産品の開発と商品の提供による地産地消の促進
- パークアンドライド機能、コミュニティバスの運行
- 田舎暮らし体験、伝統的漁法体験の提供
- 空き家情報、就労情報の提供
- 「観光まちづくり会社」の設立による雇用の創出
- 行政サテライト機能(移住定住情報の提供、ふるさと納税相談窓口等)の構築

道の駅「丹後王国「食のみやこ」

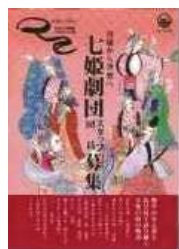
京都府京丹後市

- 農林漁業者に地域食材を生かした6次産業化研修や旅館従業員等にサービス・料理技術研修を実施し人材を育成
- 丹後地域の観光資源・地域食材等を紹介する観光等総合窓口となり、国内外の観光客を率先して誘客
- 地元高校生による地元食材を使ったメニューの開発、駅内のレストラン等で地元食材の活用により地産地消を促進



産業振興 人材育成と地域商社化	観光総合窓口 丹後地域のゲートウェイ	地方移住等促進 劇団運営で移住促進	交流連携 地元道の駅等との連携
--------------------	-----------------------	----------------------	--------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
丹後王国「食のみやこ」	京都府	京都府	府道53号	既設	平成15年	単独型



劇団旗揚げによる
地元PRと移住促進



丹後への観光客数
538万人(H26)→目標:660万人

<提案の先駆性・ポイント>

- 丹後地域の中心「道の駅」として、丹後地域の着地型観光や移住情報等総合案内、農林水産物やそれを使った加工品を販売(地域商社機能)
- 地域の農林漁業者や観光従事者等の「食」に関わる人材を育成
- 地域の道の駅、鉄道、農家民宿、観光果樹園等と連携した観光誘客
- 劇団設立による雇用の創出と移住支援、丹後地域の観光等PR

<実施内容>

- JNTO外国人案内所登録および総合案内スタッフの配置、外国発行クレジットカード利用端末の整備、Wi-Fi整備(丹後観光総合窓口化)
- 「食」に関わる人材育成のための調理・加工施設整備
- 鳥取県岡津自動車道の延長や来園者増加にともなうサブゲート側のトイレ・駐車場整備

○道の駅「ふたつ」のある二ツ井地域は、秋田県北部、世界自然遺産「白神山地」のふもとに位置し、かつては林業・舟運により栄えたものの、近年は急速な人口減少や高齢化による地域活動の低下が深刻な状況。
 ○今回、日沿道整備で支障となる道の駅「ふたつ」を単なる移転ではなく、二ツ井地域の再生をかけた最後のチャンスと捉え、移転整備する道の駅で地域課題の総解決を図る。

防災 河川防災ステーションと一体的となった総合防災拠点	地域福祉 積雪寒冷な冬場でも交流できる場	産業振興 二ツ井市街地の商業・産業振興	インバウンド観光 世界遺産「白神山地」のインバウンド観光
---------------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ふたつ	秋田県	能代市	国道7号	新設	平成30年	一体型



<実施内容>

- ①【防災】: 秋田県北地域の総合防災拠点として整備。指定緊急避難場所として避難者や利用者の安全確保や食料等を支援できる体制を整備。二次物資集積拠点とするための整備とともに、災害対策本部との密な連絡・情報発信が可能な体制確保、また自衛隊後方支援拠点、広域応援部隊のベースキャンプ機能を整備。
- ②【地域福祉】: 子育て支援センターや一次預かり所の整備等、子育て世代～高齢者まで世代を超えて集い・ふれあう場を創出。また、子育て世代と高齢者が中心となり、二ツ井のブランドづくりや6次産業化に取り組む。さらに道の駅経由のコミュニティバスを運行し、高齢者の外出機会の創出と、既存市街地への誘導・活性化を図る。
- ③【産業振興】: 加工品製造・商品開発施設を整備し、「きみまち木苺」「きみまちこまち有機栽培米」「米代川の天然点」などの地場産品に付加価値をもたせた「ふたつブランド」を確立。「秋田杉のコリナ」や楠・樽等の工芸品や商店街情報を展示・発信し、市街地の工房・体験施設及び商店街に道の駅来訪者を呼び込む。あわせて、道の駅から市街地間を河川内の遊歩道やサイクリングロードで魅力的につないで、誘導を図る。
- ④【インバウンド観光】: 世界遺産「白神山地」を玄関口として、東北各地の世界遺産と連携。多言語に対応したインバウンド観光案内所(スタッフ・カイト)を配置、あきた北空港・能代市内をつなぐ高速バス停留所設置等、インバウンド観光を支援する。



<提案の先駆性・ポイント>

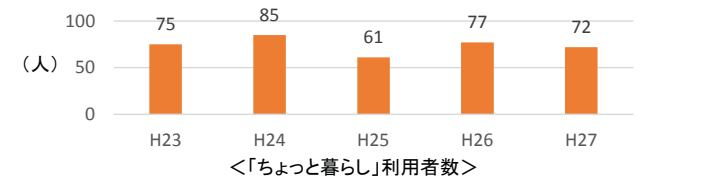
- 立地条件を活かした県北の総合的な防災拠点(水防活動拠点、道路防災拠点、秋田県北の広域的な応援活動支援拠点)
- 地域住民が冬場でも交流する場を創出し、地域の活力創造に活用
- 道の駅での取り組みを二ツ井市街地の商業・産業振興に結び付ける
- IC直結や空港近接を活かしたインバウンド観光窓口を設置

○日本版CCRC構想と連携し、高齢者向けの移住情報や、新規就農などの移住・定住促進に向けた「ちょっと暮らし体験」などの情報発信や総合案内。
 ○北海道新幹線開業に伴う年間利用者の増加を目指し、施設を充実させ、北限のヒバや南限のトドマツが自生する森林や、「遊歩百選」に選定された教育林、動乱の幕末期の史跡などの総合観光案内、「メイクイン」発祥の地でもある新鮮な農産物販売や地場産品の加工・販売による地域の活性化。



地方移住等促進 CCRC構想に基づく高齢者向けや「ちょっと暮らし」の移住情報提供	観光総合窓口 周辺施設を活用した自然散策等のショートステイ観光の促進	産業振興 地場産品を活用した商品開発
--	--	------------------------------

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
あっさぶ	北海道	厚沢部町	国道227号	既設	平成7年	単独型



<実施内容>

- 大型バス専用の駐車場確保、ドッグランの整備、散策路及び遊歩道・展望台等の再整備
- 物産センターの地域特産品売場の改修等
- 地場産の農産物等を活用した新商品開発(6次産業化・農商工連携)による販売力強化

<提案の先駆性・ポイント>

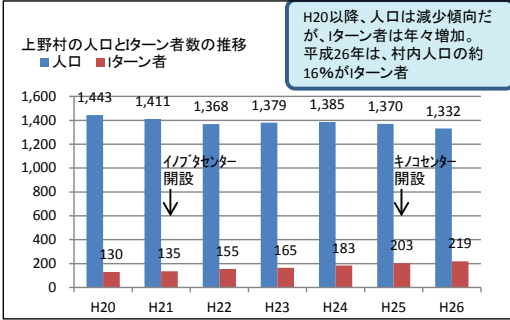
- 町が推進する日本版CCRC構想と連携した高齢者向けの移住案内や、新規就農など、移住・定住に関する総合案内や情報提供
- 北海道新幹線開業に伴う観光客の利用増加を目指し、地域資源を活用した総合観光案内や、新たな地域特産物の開発・販売に向けた地域の活性化

- 高齢者が気軽に立ち寄れる交流促進拠点「おたっしやサロン」、移住雇用相談窓口「ふらっとサロン」、デマンドバスの発着場所、買い物困難者への宅配サービスや防災の拠点等の機能を道の駅に集約し、小さな拠点を形成。
- 上野村は村営工場を設置するなど移住・雇用対策に力をいれており、新たに道の駅に移住・雇用窓口を設置するとともに、「イノブタ」等の特産品を活用した商品開発やブランド化、6次産業化に取り組む。
- 道の駅での地産品の販売にくわえ、道の駅を経由して村内宿泊施設や給食センター等で地産品を活用する地産地消に取り組む。

産業振興 特産品開発とブランド化	地域福祉 交流拠点の整備	交通結節点 デマンドバスの整備	防災 防災対応能力強化	地方移住等促進 移住相談窓口の設置
---------------------	-----------------	--------------------	----------------	----------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
上野	群馬県	上野村	国道299号	既設	平成6年	単独型



<提案の先進性・ポイント>

- 特産品である「イノブタ」を目玉とした商品開発の促進。
- 1ターン者の更なる上昇を目指した移住者の促進の取り組みを強化。
- 高齢者対策を拡充させたシニア向け「道の駅」施策の試行。

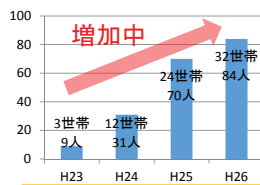
<実施内容>

- 移住・雇用に関する情報発信や相談窓口の設置(ふらっとサロン)
- 高齢化が進む農家の収入を増加させるための新規農産物導入や、それらを利用した加工品の販売などを促進
- 村内在住の高齢者が気軽に立ち寄れる場(おたっしやサロン)、買い物困難者に対して宅配サービスと高齢者の生活の足となるデマンドバスの拡充。
- 農産物直売所・加工室の設置、地場産品レストラン・カフェの設置

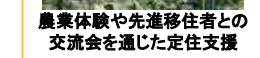
道の駅「^{さと}たからだの里さいた」

- 三豊市を代表する観光拠点である「道の駅」のポテンシャルを活かし、市の課題を解決する移住促進の拠点とする。具体的には、移住コンシェルジュによる移住相談総合窓口の設置や観光と合わせた移住体験ツアーの開催、「地域おこし協力隊」と連携した先進移住者との交流会を開催
- 日本酒文化の紹介やうどん打ち体験等によるインバウンド観光の促進

産業振興 地産地消、官民連携による地域の活性化	地方移住等促進 新規就農及び定住支援	観光総合窓口 体験型観光案内・観光案内	インバウンド観光 日本酒から学ぶ地域文化の発信
----------------------------	-----------------------	------------------------	----------------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
たからだの里さいた	香川県	三豊市	主要地方道 観音寺池田線	既設	平成11年度	一体型



<提案の先進性・ポイント>

- 移住コンシェルジュとして活躍できる人材を都心部から採用。
- 地元農業団体の指導による農業体験や、地域おこし協力隊員と連携をとり、先進移住者との交流会を行い、定住を支援する。
- 地産地消の推進及び、産直施設の効率的な運営を目指し、道の駅のレストランや、県内ホテルへ農産物を提供し、農業者の意欲を向上させる。
- 外国人観光客に対するサービスの向上及び日本文化のPRを行う。

<実施内容>

- 移住コンシェルジュによる移住相談総合窓口の設置
- 農業者、漁業者と連携をとり、地域資源を活かした体験観光の開発
- 農業体験や先進移住者との交流会の開催
- 郷土料理の開発や県内ホテルへ産直市農産物を提供
- 多言語案内板・パンフレット・無料公衆無線LANの整備
- 地元酒造会社の酒蔵見学案内等により、日本文化として日本酒を紹介

- 阿蘇市で生産・加工された特産品のブランド化及び地元高校と大学等との連携による商品開発
- 「道の駅」と消防署、医療センター等の連携による「小さな拠点」の形成
- 空き家バンク制度活用し、移住定住等を促進するための「おためし生活支援事業」の創設

産業振興 特産品ブランド化の推進	地域福祉 地域福祉の提供	交通結節点 地域への交通支援	防災 防災啓発、地域防災	観光総合窓口 阿蘇・九州圏域の案内拠点	インバウンド観光 外国人来訪者へのおもてなし	地方移住等促進 移住定住を支援促進	交流・連携 交流連携促進
---------------------	-----------------	-------------------	-----------------	------------------------	---------------------------	----------------------	-----------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
阿蘇	熊本県	阿蘇市	国道57号	既設	平成20年	一体型

Category 2
Tourist Information
観光案内所

多言語による総合案内

特産品共同開発・販売促進

地域散策ツアー

移住定住支援促進

年度	開催数
H24	12
H25	15
H26	18

年度	相談件数
H24	25
H25	35
H26	55

<提案の先駆性・ポイント>

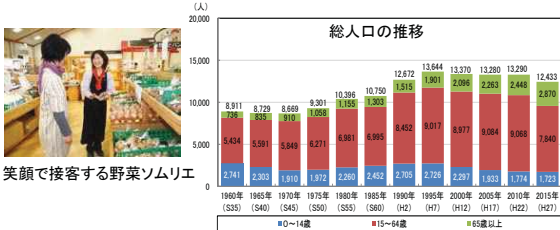
- 世界農業遺産と世界ジオパークの認定を世界で唯一併せ持つ阿蘇地域の中心の立地を背景に、道の駅に隣接する交通や福祉、防災、観光施設を連携させて更なる集客に努め、更に多彩な取組で地産地消の促進及び地域活性化につなげ、阿蘇市全体へ波及効果をもたらす主要拠点を形成
- 移住定住に関する情報提供だけでなく、移住決定前の仮移住により地域をより把握(確認)できる体験生活(住居や就労等生活全般支援)を提供

<実施内容>

- 地元の高校・大学等との特産品共同開発および販売促進
- 国内外からの全ての来訪者に対応可能な総合案内体制の整備
- 防災及び福祉関係機関等との連携可能な機能(事業)の整備
- おためし生活支援事業による移住定住の支援促進

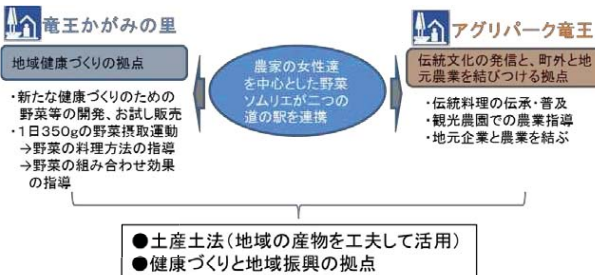
- 集客力のある竜王かがみの里と農業生産力のあるアグリパーク竜王を連携させて、効率的な土産土法(※土地のものを土地ならではの料理法でもてなすこと。竜王町ではまちづくりの手法にも取り入れ)の推進
- 農業の担い手(定年退職者等)の育成、農住(空き家対策)の窓口の設置

産業振興 果樹・園芸生産団地を活かす農業振興	地域福祉(健康) 野菜ソムリエによる健康づくり	地方移住等促進 新規就農者への空き家斡旋	交流・連携 町内企業との地域内連携
---------------------------	----------------------------	-------------------------	----------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
竜王かがみの里	滋賀県	竜王町	国道8号	既設	平成15年	一体型
アグリパーク竜王	滋賀県	竜王町	国道477号	既設	平成27年	単独型

竜王かがみの里、アグリパーク竜王の位置図



笑顔で接客する野菜ソムリエ

お試し販売を行う直売所

アグリパーク竜王を囲む畑地

<提案の先駆性・ポイント>

- 野菜ソムリエを中心とした商品開発と町民の健康づくり
- 消費者ニーズを生産販売に結びつける2駅の連携と生産体制の構築(野菜ソムリエ・就農コーディネーター、生産団地・生産組合等)
- 農産物のお試し販売までチャレンジできる農業体験
- 町内企業の定年退職者等をターゲットにした農業の担い手育成

<実施内容>

- 野菜ソムリエを活用した特産品の開発(ブランド化)
- 町民の健康づくり『1日350g野菜摂取運動』の実践
- アグリパーク竜王の体験農園で収穫した農産物の試験販売
- 町内企業等の定年退職者等への体験農園提供
- ブランド農産物の量産、新たな野菜栽培の開発(特産品化)
- 新規就農者への農地および住宅の紹介(農住支援)

- 中国やまなみ街道に並行する国道54号沿線地域は、人口減少・高齢化等が進行している過疎地域であることに加え、中国やまなみ街道の開通に伴う交通量の減少により道の駅や店舗等の売上げが減少、地域の衰退が懸念
- 同様の課題を抱える国道54号沿線4つの「道の駅」が中心となり、体験型観光イベントなど連携した取り組みを実施し、人々の交流を促進し、観光客のみならず『地域の人が集まる道の駅』への再生を目指す。
- さらに、地域外からの所得獲得や移住・雇用創出のため、4駅が連携し道路・防災・観光・定住などの情報発信を行い、地域内外住民との対流拠点として機能させ、地域の暮らしを持続的に支える環境を構築する。

交通量減により地域の衰退が懸念



連携イベントの実施(サイクリング等)



内外にむけた広域的な情報発信(道路・防災・観光・定住等)



人口減少に歯止め 国道54号沿線地域の生活基盤を持続的に維持

地域維持のため、道の駅が公共的サービスを協働して実施



「道の駅」の設備更新、巡回バス導入等により、多彩な世代が集う「小さな拠点」として機能強化



地域内外住民との交流促進

<提案の先駆性・ポイント>

- 県境を跨いだ2市1町の4つの「道の駅」が、それぞれの施設・設備の更新、巡回バスの導入、農産品加工施設の整備により、地域の「小さな拠点」として機能を強化。
- 4つの「道の駅」が連携することで、自転車など体験型観光イベントなどの実施により、新たな交流をつくりだし人々を呼び込みむことで、移住・就労等の情報発信力が高められる。
- これらの取り組みにより、人口減少に歯止めをかけ、沿線地域の活性化に寄与する。

地域福祉 高齢者等の買い物支援	産業振興 地域産品の生産・販売拠点	交流・連携 広域的な情報発信	防災 冬期における情報共有
---------------------------	-----------------------------	--------------------------	-------------------------



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ゆめランド布野	広島県	三次市	国道54号	既設	平成8年	一体型
赤来高原	島根県	飯南町	国道54号	既設	平成8年	一体型
頓原	島根県	飯南町	国道54号	既設	平成5年	一体型
掛合の里	島根県	雲南市	国道54号	既設	平成5年	一体型



<実施内容>

- 地域の高齢化等に対応した住民サービスの提供強化
- 地域産品の生産・販売拠点としての機能強化
- 地域間の交流・連携を促進
- 道路情報等の連携発信
- 利用者ニーズに応じた道の駅基礎機能の改善